

第2章 垂水遺跡

第1節 遺跡の位置と歴史的環境

島根県大田市は、東西に長い島根県のほぼ中央に位置し、南には三瓶山や大江高山などの火山群があり、北は日本海に面している。三瓶山と大江高山の間を流れて日本海へ注ぐ三瓶川や静間川の河口には沖積平野があり、海岸部には砂丘が発達している。

【旧石器・縄文時代】

今のところ大田市域では旧石器時代の遺跡は確認されていないが、平成26年度に発掘調査が行われた久手町中尾H遺跡4区では、縄文時代草創期に遡る可能性がある尖頭器が出土している。

縄文時代の遺跡では、中尾H遺跡で縄文土器が多く出土している。後期が中心であるが、前期や中期の土器も確認された。また、大型の石棒も出土している。

【弥生時代】

弥生時代の遺跡は、長久町土江遺跡(4)から前期の土器が採集されているほか、久手町栗林B遺跡では前期の河道から貯木施設と考えられる環状の杭列が確認されている。鳥井町鳥井南遺跡の狼段原地区では、標高85～95mの丘陵上に中期後葉～後期後葉の集落が確認されている。鶴山遺跡では、後期前半期の北部九州系の壺が出土している。

このほか、静間町平ノ前遺跡(3)では後期前葉の水路が、長久町・鳥井町御堂谷遺跡では標高約50mの丘陵上から前期の土器や中期から後期にかけての竪穴建物が見つかっている。

【古墳時代】

弥生時代の遺跡で説明した鳥井南遺跡では人形や武器形などの土製模造品が出土している。また、平ノ前遺跡では前期から後期にかけての竪穴建物のほか、流路から中期から後期にかけての大量の遺物が出土している。このほか、静間城跡(2)では丘陵斜面に加工段が築かれている。

久手町市井深田遺跡では、後期から平安時代にかけての掘立柱建物跡や加工段が確認されている。

この地域は後期に多数の横穴墓が築かれる地域である。特に波根湖周辺の丘陵部に多いが、静間町内でも横穴墓が築かれている。

【奈良・平安時代】

静間町鯛溝遺跡(37)は静間川に面した斜面に位置し、刻書土器や墨書土器、土馬などが出土している。遺跡の性格として、立地から河川の管理や交通に関する性格が推定されている。長久町八石遺跡(27)は、奈良・平安時代の遺物が多く出土し、円面硯も出土している。前述の平ノ前遺跡では大型の掘立柱建物跡や墨書土器が確認されており、奈良・平安時代においても重要な遺跡であったことがうかがえる。

【鎌倉・室町時代】

山城では、静間城跡(2)、稲用城跡(29)がある。このうち静間城跡は礎石建物跡や掘立柱建物跡のほか、土塁と切岸を確認した。居館的な居住空間を兼ね備えた山城であり、15世紀後葉～16世紀前葉と考えられる。

第2節 調査経過

垂水遺跡は、大田市静間町垂水に所在する。国道9号線に並行して東西に延びる丘陵の上、東へ向く谷の上方に位置する。遺跡の標高は54～58mである。調査面積は合計1,430㎡である。調査前の遺跡は山林であった。

平成26・27年度に試掘確認調査を実施した。平成26年度は第4図左下、市道静間五十猛線沿いの部分で、図中に「14T○」としたトレンチを7か所設定した。市道静間五十猛線は近世山陰道に比定されており、14T4、14T7では近代の石組み遺構を確認した(第5図)。平成27年度は丘陵部分に29か所のトレンチを設定した(第6図)。このうち、谷部に位置するT14からT16で奈良・平安時代の須恵器が出土したことにより、この部分を本発掘調査対象地とした。本発掘調査は平成28年度に実施したが、用地買収時期の関係でトレンチを設定できなかった部分について、平成29年度に5か所のトレンチを設定したところ、本発掘調査区の南西側の斜面の17T2と17T5において遺物の出土をみたことから、この部分を平成30年度に本発掘調査を実施した。

調査の方法

調査区の設定

調査では、重機掘削後に10m四方のグリッドを設定し、南北にアルファベット、東西にアラビア数字を振り、北西側を基準とした。遺構に伴わない遺物はグリッドで取り上げた。

表土・包含層掘削と遺構検出

試掘確認調査を受け、表土の掘削にはバケットに平爪を装着したバックホーを使用し、少しずつ的掘り下げを行った。遺物包含層の掘削はスコップやジョレンを用いて人力で掘り下げ、出土する遺物の粗密に応じて適宜草削りや移植ゴテ等を使用した。

遺構掘削

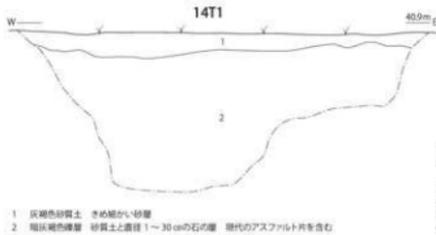
遺構の掘削には草削りや移植ゴテを使用した。遺構の掘削は土層観察用の畦を設定するか半載して、土層を観察しながら掘り下げた。土層については必要に応じて写真撮影を行い、図面を作成した。遺構から出土した遺物については適宜出土状況を記録した後、取り上げた。

No 遺跡名

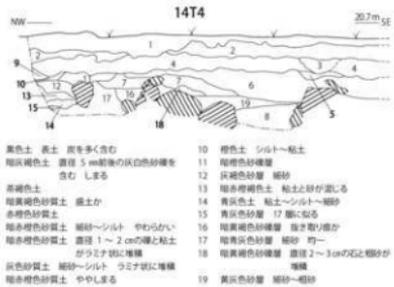
1	垂水遺跡	11	竹下忠紀宅後横穴	21	八日市遺跡	31	山根遺跡
2	静間城跡	12	五十猛小学校遺跡	22	笹川遺跡	32	西烏井遺跡
3	平ノ前遺跡	13	湊東遺跡	23	新田遺跡	33	上山根遺跡
4	土江遺跡	14	近藤浜横穴	24	八日市鍛冶遺跡	34	北沢遺跡
5	大道横穴	15	近藤平遺跡	25	八日市鈔	35	烏井西遺跡
6	天主山横穴	16	平遺跡	26	浄土寺遺跡	36	静間鈔
7	伝地山古墳	17	綱引浜遺跡	27	八石遺跡	37	鱈淵遺跡
8	平山横穴	18	渡瀬遺跡	28	大畑横穴群	38	桜田遺跡
9	柿田立目後横穴群	19	八日市横穴群	29	稲用城跡		
10	垂水古墳	20	第二八日市横穴	30	稲用下遺跡		



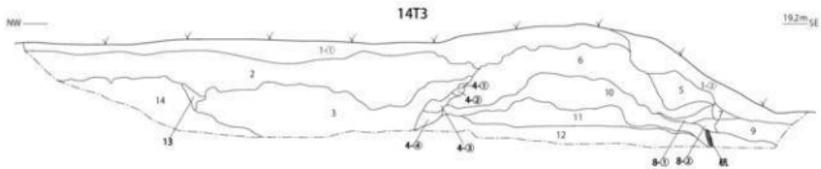
第4図 垂水道跡位置図



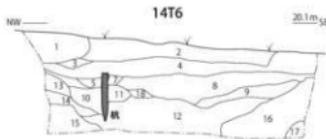
- 1 灰褐色砂質土 きめ細かい砂層
- 2 暗灰褐色礫層 砂質土と直径1~30cmの石の層 現代のアスファルト片を含む



- 1 黒色土 表土 灰を多く含む
- 2 暗灰褐色土 直径5mm前後の灰白色砂礫を 含む。しまる
- 3 黒褐色土
- 4 暗黒褐色砂質土 灰土か
- 5 赤褐色砂質土
- 6 暗赤褐色砂質土 細砂〜シルト やわらかい
- 7 暗赤褐色砂質土 直径1~2cmの礫と粘土が 多少に混在
- 8 灰色砂質土 細砂〜シルト ラミナ状に堆積
- 9 暗赤褐色砂質土 ややしまる
- 10 褐色土 シルト〜粘土
- 11 暗褐色砂礫層
- 12 灰色砂質土 細砂
- 13 暗赤褐色土 粘土と砂が混在
- 14 暗赤褐色土 粘土〜シルト〜細砂
- 15 黄灰色土 12層に転る
- 16 暗黒褐色砂礫層 粘土取り層か
- 17 暗黄灰色砂質土 細砂 均一
- 18 暗黒褐色砂礫層 直径2~3cmの石と粗砂が 堆積
- 19 黄灰色砂質土 細砂〜粗砂

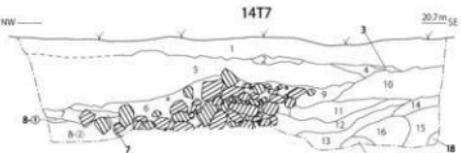


- 1-① 赤色土
- 1-② 赤褐色土 表土
- 2 暗褐色土 3層を埋め戻したような層か
- 3 暗褐色土 灰白色土 (シルト〜細砂)、赤褐色土 (シルト〜細砂) かなる層 (一部ラミナ状に堆積)
- 4-① 暗褐色土 直径1~10mmの白色礫片を含む
- 4-② 暗褐色土 直径1~10mmの白色礫片を含む
- 4-③ 赤褐色土
- 4-④ 赤褐色土 灰土か
- 5 黒褐色土
- 6 赤褐色土 直径1~10mmの白色礫片を含む 固くしまる
- 7 暗黒褐色粘質土
- 8 暗灰色粘質土
- 9 暗灰色粘質土
- 10 暗黒褐色砂質土 自然堆積か 礫をあまり含まない
- 11 黄褐色砂質土 直径1~3cmの石を含む 黄褐色物質を多く含む (80%) 自然堆積か
- 12 黄褐色砂質土 直径1~3cmの石を含む 黄褐色物質を多く含む (80%)
- 13 黄褐色砂質土 木の根の痕跡か
- 14 黄褐色砂質土 直径1~5cmの石を含む (部分) がある 黄褐色物質 (80%) を含む 12層と同一層か

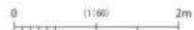


- 1 暗褐色土
- 2 赤色土
- 3 暗赤褐色土 粘質土 礫物の割合を多く含む
- 4 暗黄灰色粘質土
- 5 暗黄灰色粘質土 濃もしくは暗黒か
- 6 黄灰色粘質土 砂を少し含む ややしまる
- 7 暗黄灰色粘質土
- 8 暗褐色土 シルト〜細砂
- 9 黄褐色土 粘土〜シルト〜細砂
- 10 暗黄灰色土 シルト〜粘土
- 11 暗黄灰色土 シルト〜粘土 10層と同一層か

- 12 暗褐色砂質土 砂礫層 直径1~5cmの石を多く含む
- 13 黄灰色粘質土 粘土 砂を少し含む 比較的 やわらかい
- 14 黄灰色土 粘土〜シルト〜細砂 砂質を含む
- 15 暗黒褐色粘質土 細砂 均一な層
- 16 暗黒褐色粘質土 粘土〜シルト 非常にやわらかい
- 17 黄褐色砂質土 砂礫層
- 18 暗褐色砂質土 細砂〜粗砂

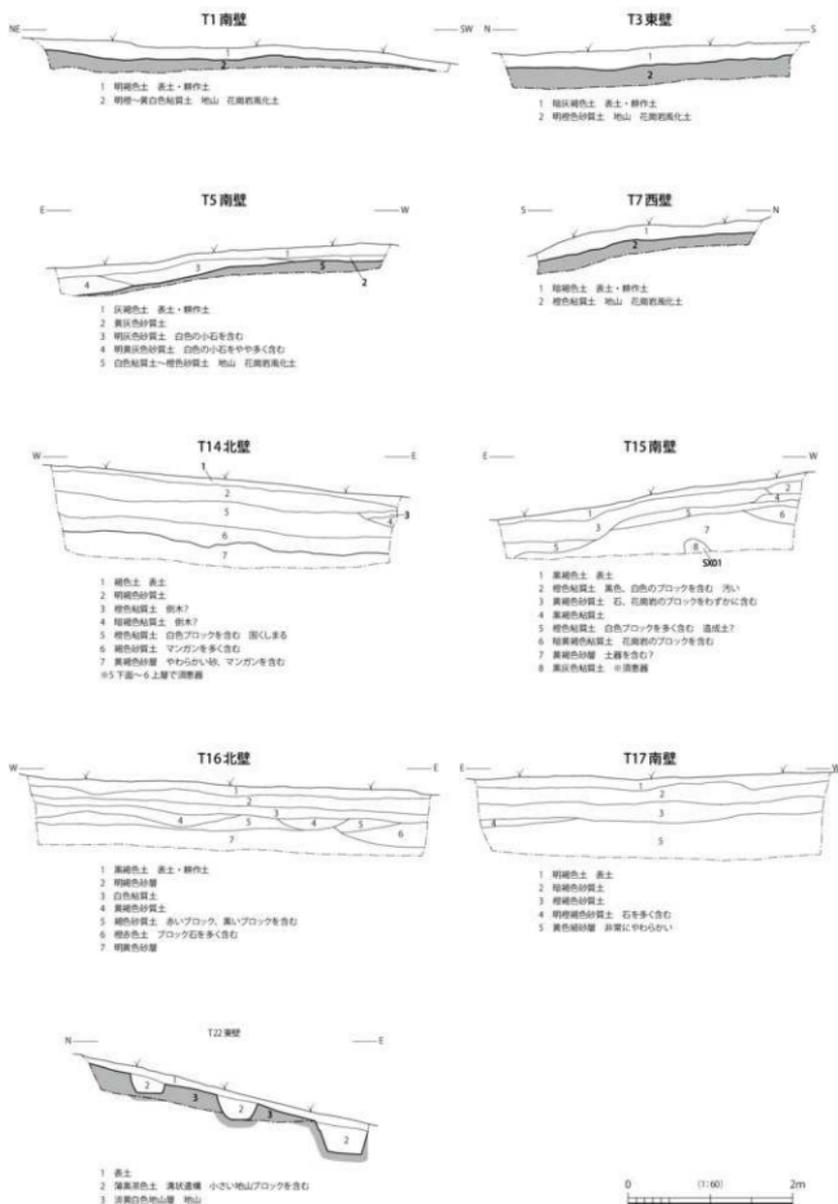


- 1 暗赤褐色土 表土
- 2 灰色砂質土 細砂主体
- 3 暗褐色砂質土 細砂主体
- 4 灰色砂質土 細砂主体
- 5 暗赤褐色土 赤褐色土 (細砂〜シルト) と灰色土 (粘土〜細砂)、暗黒褐色土 (シルト〜粘土) が混在
- 6 暗褐色土 一部ブロック状に黄灰色土を含む 粘土か
- 7 黄褐色土 細砂
- 8-① 黄灰色土 粘土〜シルト やわらかい
- 8-② 黄褐色砂質土 上部付近は直径3~10cmの石が堆積
- 9 褐色粘質土 粗砂
- 10 暗褐色粘質土 粗砂
- 11 灰色粘質土 細砂〜シルト
- 12 灰色粘質土 シルト〜粘土 やわらかい
- 13 灰色土 細砂〜シルト〜粘土 やわらかい
- 14 黄褐色土 細砂〜シルト ややしまる
- 15 灰色土 シルト〜粘土
- 16 黄褐色砂礫層 直径5cm前後の礫と粗砂が堆積 黄灰色粘質土を礫状に含む
- 17 黄灰色土 シルト〜細砂
- 18 黄褐色砂礫層 16層と同一層か



第5図 垂水遺跡トレンチ土層図1

第2章 垂水道跡



第6図 垂水道跡トレンチ土層図2

記録の作成

遺構の平面図は遺跡調査システム「遺構くん」を用いて測量し、出力後補正を行った。断面図は「遺構くん」のほかオートレベルを用いて測量を行った。また、必要に応じて手測りで平面図や断面図を作成した。遺構の写真は35mmデジタルカメラで撮影し、必要に応じて6×7判フィルムカメラ（モノクロネガ、カラーポジフィルム）により撮影した。

整理等作業

報告書作成はDTP方式を採用し、トレースや図の加工などはAdobe社製Illustrator CS5.1、Photoshop CS5.1を用いた。遺構・遺物写真はデジタルカメラで撮影した後、Photoshop CS5.1を用いて調整した。原稿編集作業はAdobe社製InDesign CS5.5を用いて行った。

《平成28(2016)年度》

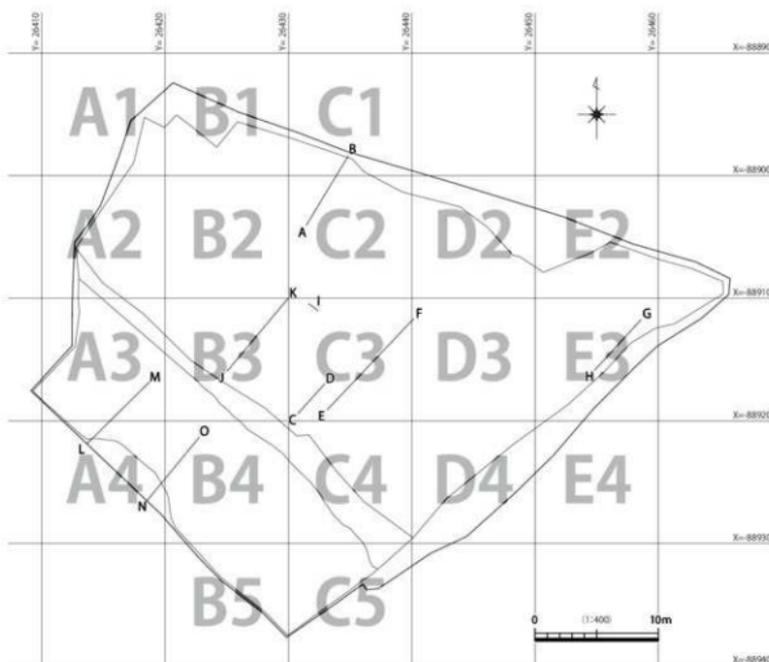
5月23日 調査開始

6月1日 下層に黒色土確認

6月28日 黒色土を面的に確認、以後断続的に測量

7月8日 黒色土の掘り下げを開始

7月19日 黒色土の下層にある土層を掘り下げ、遺物多くなる



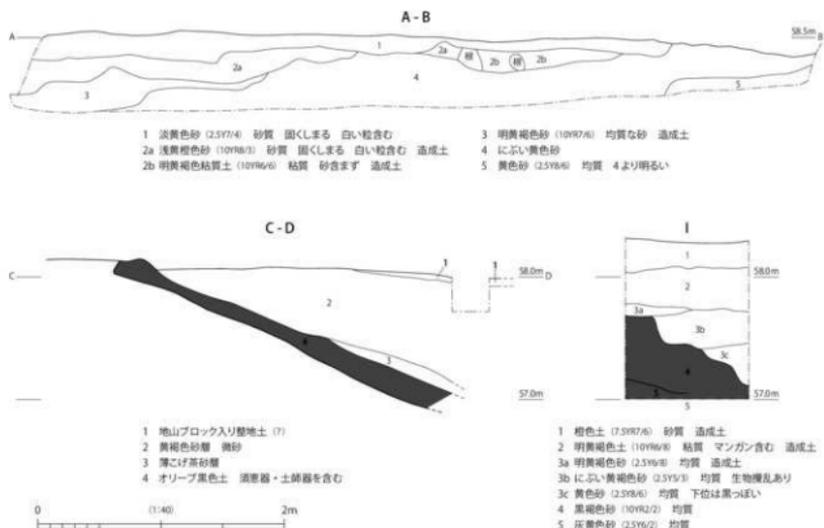
第7図 垂水遺跡全体図

- 8月1日 大橋泰夫氏（島根大学法文学部教授）による調査指導会
 8月5日 焼土 1.2 検出
 8月12日 文化財調査コンサルタントによる分析試料採取
 8月24日 完掘写真撮影、測量、調査終了
 《平成30（2018）年》
 5月31日 調査開始
 6月13日 黒色土層を確認
 6月15日 調査範囲の南東斜面で土器を採集したことから、調査範囲を拡張する
 6月18日 黒色土層を掘り上げ、下層を掘り始める
 6月25日 拡張した調査区の土層図を作成する
 7月2日 高田健一氏（鳥取大学地域学部准教授）による調査指導会
 7月18日 猛暑の中、完掘写真を撮影する
 7月20日 ラジコンヘリによる空撮写真を撮影する。片付けをして調査を終了する
 以後は埋蔵文化財調査センターで整理作業を行う

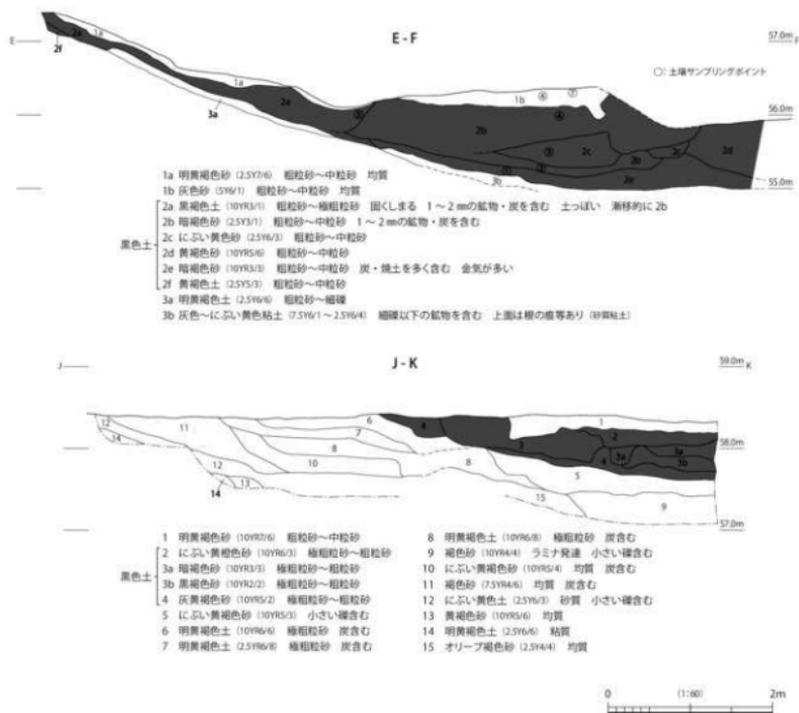
第3節 調査成果

1. 層序

黒色土を鍵層として、黒色土より上層、黒色土、黒色土より下層、造成土・盛土（本来の層位が不明なもの）の四つに大別した。



第8図 垂水道跡A-B土層図、C-D土層図、I柱状土層図



第9図 垂水遺跡 E-F 土層図、J-K 土層図



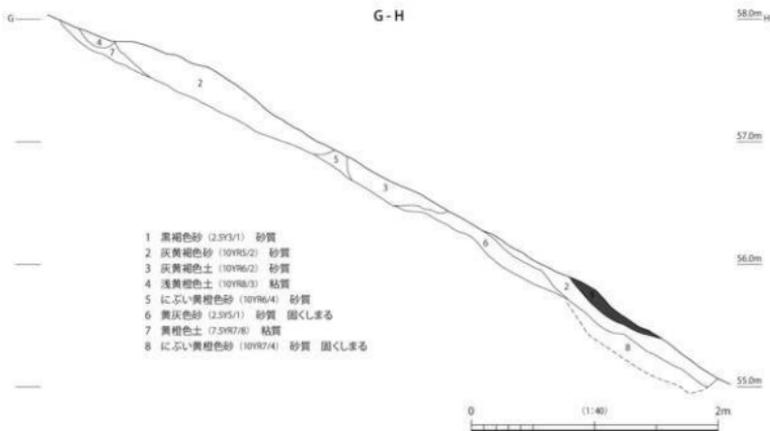
写真1 調査指導風景

T14～16の7層、T17の5層が砂層で、表土下50～70cmで砂層に至る。この砂層はA-Bの4層、C-Dの2層、Iの3層、E-F、J-Kの1層、N-Oの3層に対応すると考えられる。この砂は粒度分析により中砂が主体の砂丘の砂であり（第5章第1節参照）、海岸の砂が吹き上げられて形成されたと考えられる。この層を調査時には様々な名を付けていたが、本報告ではこの層から上位を「黒色土より上層」とした。

その下にある黒色土層は、土の乾き具合によってE-F、J-K（第9図）のように細かく分層できた。黒色土は標高55～58m、62m～64mで確認した。調査区西側の58.25m～62.00mの間では、黒色土が確認できなかった。黒色土が削平されたと考えられる。黒色土は調査区の中央の平坦な部分では50～60cmの厚みがありよく残っていたものの、調査区の東側では水の流れなどにより削平された部分があり、斜面のため30cm程度の厚みであった。なお、黒色土の上面には生痕があった。調査時にはこれは砂丘の活動が停滞している時期に形成されたいわゆる「クロスナ」層と判断したが、土が固くしまるどころや鉄分が付着しているところがあったほか、粗い砂粒を含み、下の層が土壌化した旧表土である可能性が強く、上層とは堆積環境が異なることがわかった。このことから、「黒色土層」と表記する。第8～11図では、土層中に網掛けして示した。

黒色土の下層は、黄褐色～明黄褐色が中心で、極粗粒砂～粗粒砂で構成されている部分が多く、しまりが良い。部分的に炭を含み、最大で50～60cm掘り下げた（第9図JK）。黒色土の下層からは多くの遺物が出土した（第16図）。J-Kのように分層できる部分があったが、平面的に層を認識することは難しく、遺物が出土しなくなったところで完掘したと判断した。

L-Mの1a～f層は、黒色土層を切って造成した土である。この土は元々上方に堆積した土が削平・造成により斜面に堆積した土と考えられる。また、調査区の南東側、B4、C4、C5グリッドは削平が著しく、下方へ堆積した土から遺物が出土した。これらの土層から出土した遺物は、元々の層位が不明であることから、「造成土・盛土」として別の項目とした。



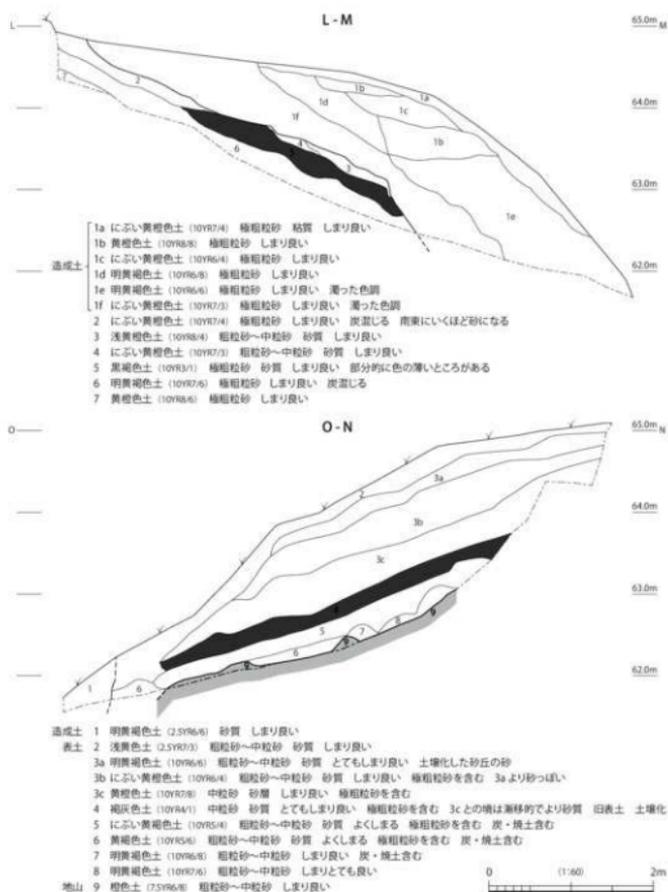
第10図 垂水遺跡 G-H土層図

2. 検出遺構

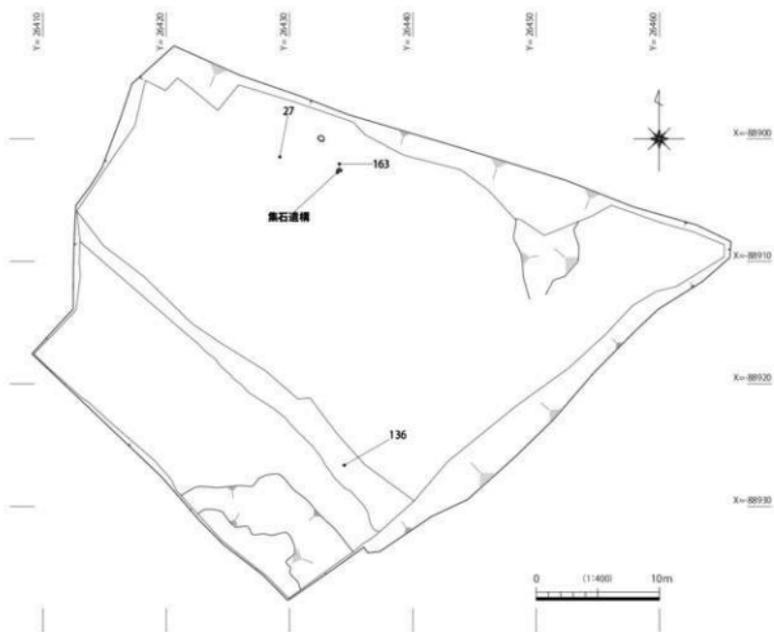
遺構は黒色土より上層の明黄褐色砂層の中から人頭大の石が見つかり、「集石遺構」とした。黒色土層中からは焼土3か所を確認した。造成土・盛土の下から掘立柱建物1か所、黒色土層の下層から炭溜まり1か所を確認した。

集石遺構 (第13図)

C2グリッドに位置する。黒色土層より上層の明黄褐色砂層中で確認した。人頭大の石を4つ置いている。掘り込みを確認することはできなかった。石は熱を受けているが、炭や焼土を確認できなかった。砂層中にあることから、これらの石は持ち込まれたものと考えられるが、遺構の性格は不明である。



第11図 垂水遺跡L-M土層図、N-O土層図



第12図 垂水道跡黒色土より上層遺物分布図



第13図 垂水道跡集石遺構実測図

焼土 (第15図)

C3.C4.D3 グリッドの接する部分に位置する。黒色土層中の下位の部分で確認した。焼土は2か所に分かれていたので、上方を焼土1、下方を焼土2とした。焼土は第15図で網掛けした部分である。焼土1は80×40cmの範囲で見つかった。焼土は固くしまっていた。断面では、焼土が多い部分(第15図4層)と土の部分に分けることができた。炭化材を確認した。炭化材は第15図黒塗り部分である。

焼土2は40cm四方の範囲で見つかった。焼土2に接して炭化材を確認した。

焼土3は焼土1.2の北約2mに位置する。焼土の範囲を掘りあげた際の平面形がL字であるが、当初の形は不明である。規模は1.4×0.7mである。

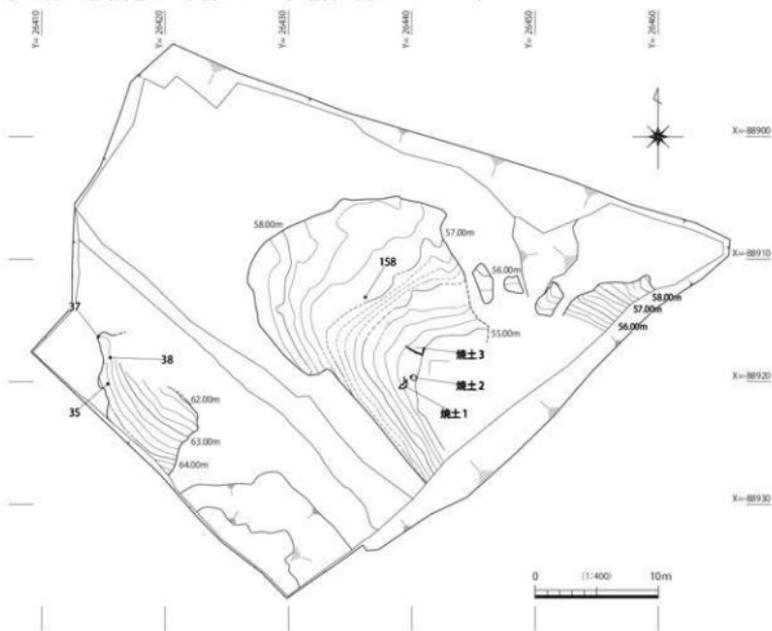
これらの焼土は他の遺構を伴わないことから、屋外炉の可能性はある。

掘立柱建物 (第17図上)

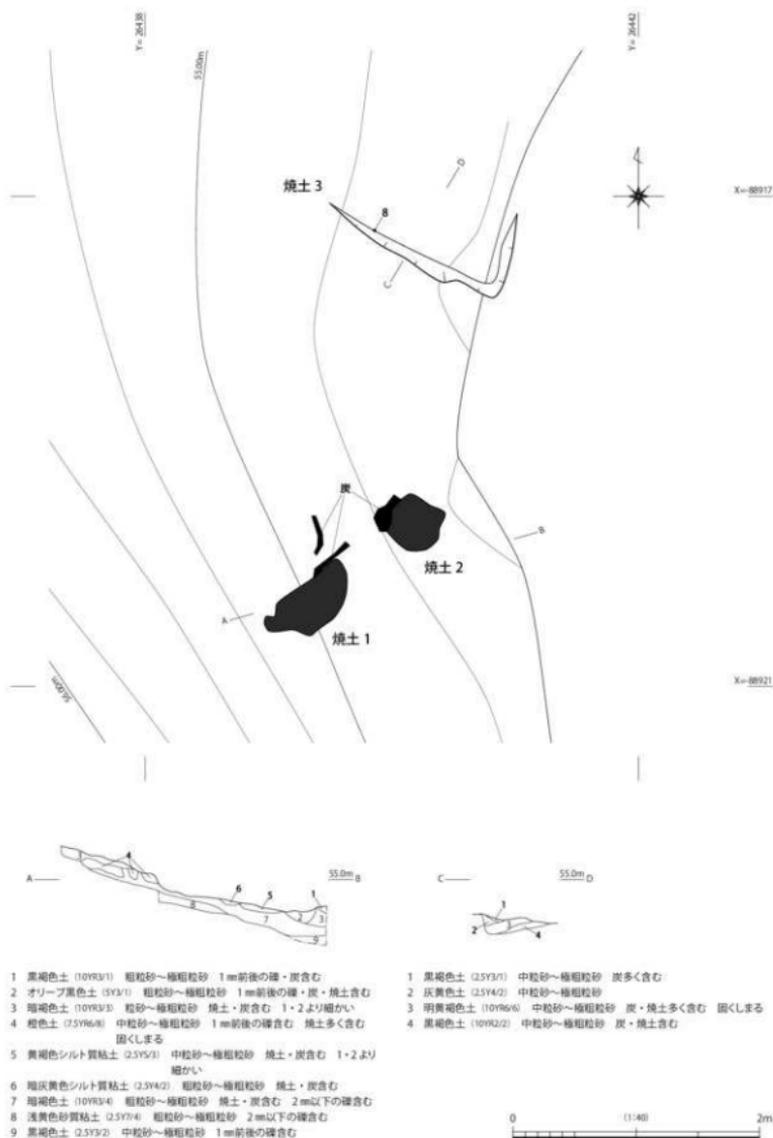
B3 グリッドに位置する。造成土・盛土を掘り上げ、地山を清掃している際に確認した。地面が乾燥している時期の清掃の際に検出したため、当初は遺構と認識できず、埋土を確認できなかった。調査区の端の斜面で確認した。2間分の柱穴を確認した。遺物は出土しなかった。

炭溜まり (第17図下)

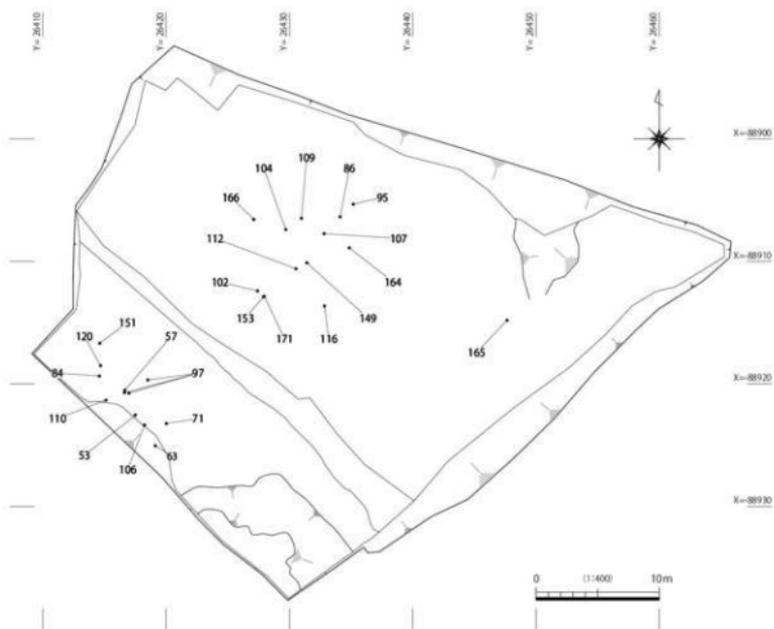
A4 グリッドに位置する。調査区の壁際で検出したので、一部しか確認できなかった。黒色土より下層の部分掘り下げている際に、炭混じりの土を確認した。長楕円形で、遺構の下位には炭を多く含む明黄褐色土が堆積していた。遺物は出土しなかった。



第14図 垂水遺跡黒色土上面測量図



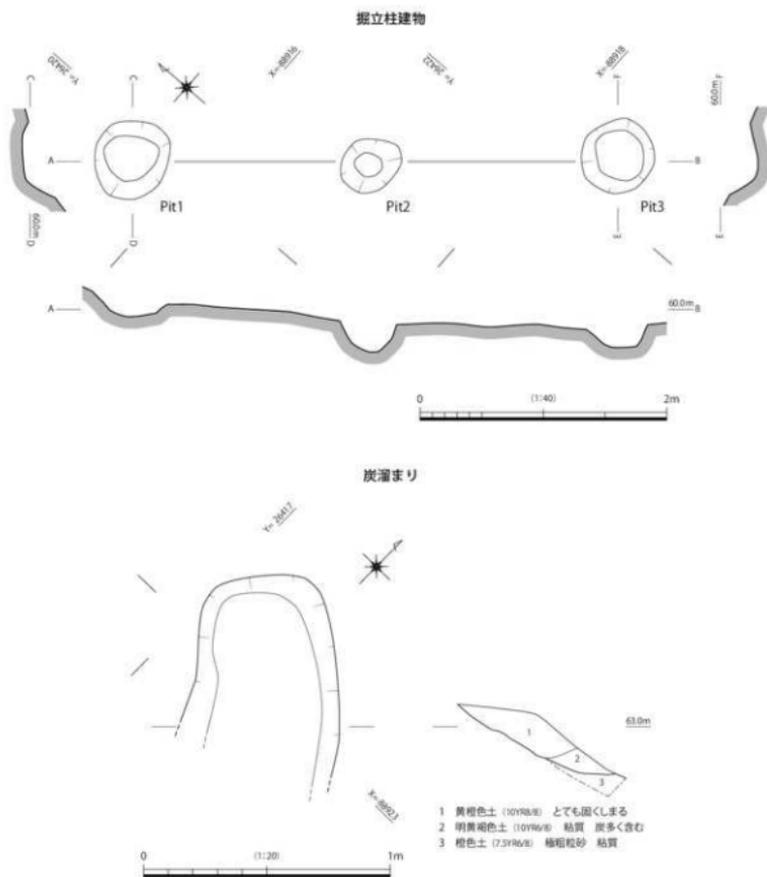
第15図 垂水道跡焼土1-3実測図



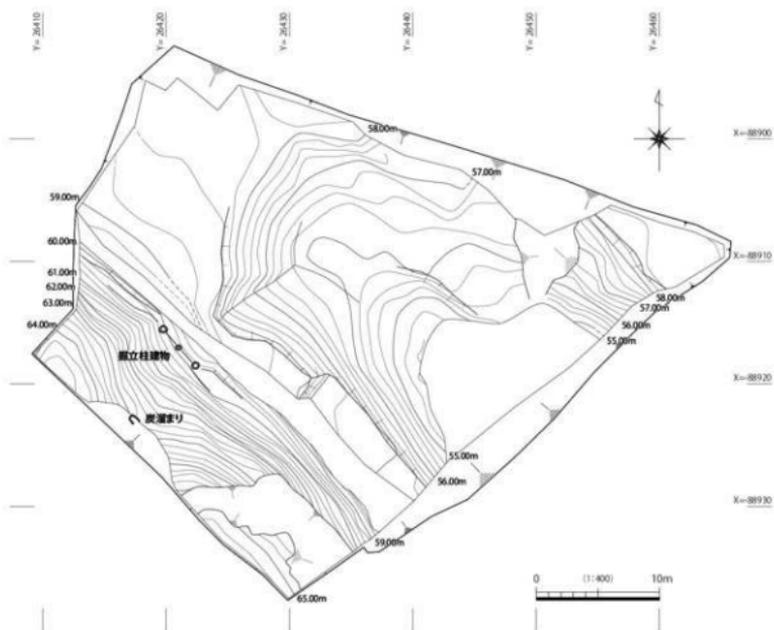
第16図 垂水遺跡黒色土より下位遺物分布図



写真2 作業風景1



第17図 垂水道跡掘立柱建物、炭溜まり実測図



第18図 垂水遺跡完掘平面図



写真3 作業風景2

3. 遺物

垂水遺跡から出土した土器を以下の基準で分類し、注記が可能なものの数量と重量を計測した。その結果は第6表に掲載した。なお、分類は鯛洲遺跡（大田市教育委員会編2017）を参考にした。須恵器は以下の器種に分類し、さらに部位を細分した。焼成は硬質と軟質がある。

・蓋

つまみ一宝珠形、ボタン形、輪形

体部一笠形、屈曲形、扁平形

・口縁端部一かえりあり、丸形、折り曲げ形、面取り形

・坏一高台をもたないもの、高台を持つもの

高台の有無が不明の口縁、体部

・高坏

・壺一口縁、胴部

・甕一口縁、胴部

土師器は以下の器種に分類した。

・甕一口縁、胴部

・鉢

赤塗土師器

・坏

・椀

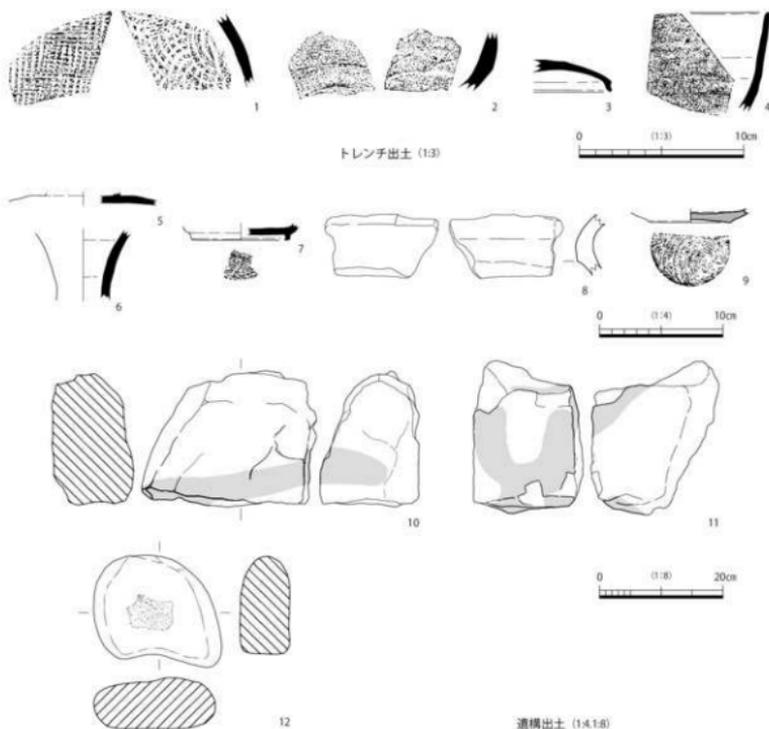


第19図 垂水遺跡須恵器分類模式図

- 皿
- 土製品
- 土製支脚
- 移動式竈
- 甔
- その他、製塩土器

出土遺物

トレンチ (第20図1~4) トレンチから出土した遺物は須恵器である。1は甕の胴部、2は外面の上半分にカキメ、下半分はケズリである。3は口縁端部を折り曲げるものである。4は内外回転ナデ。遺構 (第20図5~12) 5.6は焼土1から出土した。5は輪状つまみである。7は焼土1と2の周辺で出土した。8は焼土3から出土した。9は集石遺構から出土した。焼きがよく、陶器の可能性はある。11~13は集石遺構の石である。いずれも熱を受けた痕がある (図のトーン部分)。11.12は角礫であるが、13は叩石状の丸い石である。



第20図 垂水遺跡トレンチ・遺構出土遺物実測図

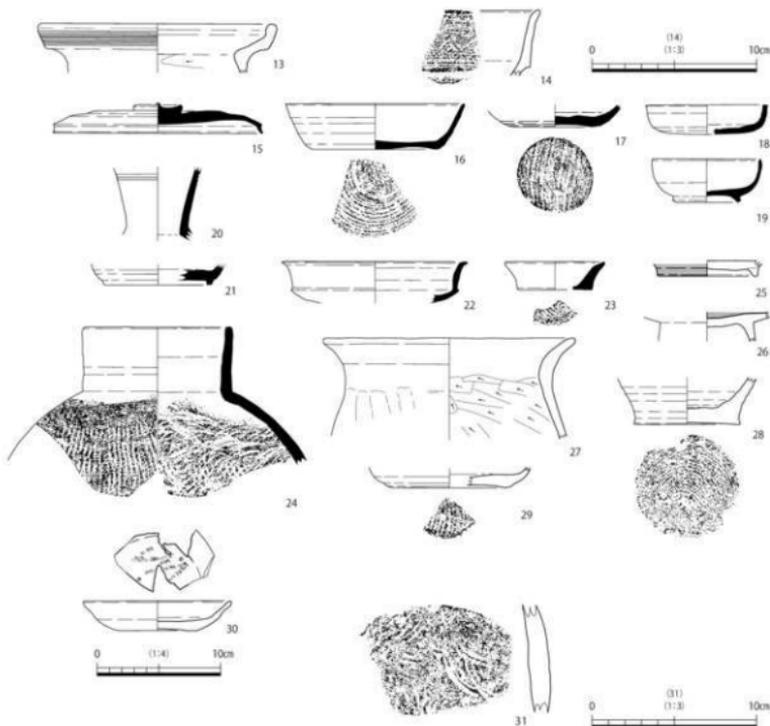
遺構に伴わない遺物

遺構に伴わない遺物を以下に記す。遺物は黒色土やその上下の層から出土した。遺物は密集して出土することは無く、散らばって出土した。

黒色土より上層(第21図13～31) 第21図は黒色土より上の層から出土した土器の他、明らかに原位置から遊離した土器を含む。13は弥生時代後期の甕である。口縁部の幅はやや狭いが、10条の柳描直線文があることから、V-3様式まで下る可能性がある。14は古墳時代前期の土師器の甕で、口縁外面に波状文を描く。この特徴は古い段階の古式土師器にみられる特徴であり、草田4期までさかのぼる可能性がある。

15～24、31は須恵器である。15のつまみは幅広く扁平であり、つまみの内部の周りを凹ませている。体部の高さは低い。16～18は坏である。16は回転糸切り、17は静止糸切りである。19は小ぶりの高台付坏で、体部は丸みを帯びる。22は外面に稜がある。高坏の可能性がある。23は灯明皿である。24は短頸の壺である。31は軟質の甕である。摩滅により外面の調整は不明であり、内面の当て具痕のみ掲載した。還元炎焼成になっていないので、断面は黒塗りにしなかった。

25～29は土師器である。25、26は赤彩の土師器である。25の高台は低い。27は甕、28、



第21図 垂水道跡黒色土より上層の遺物実測図

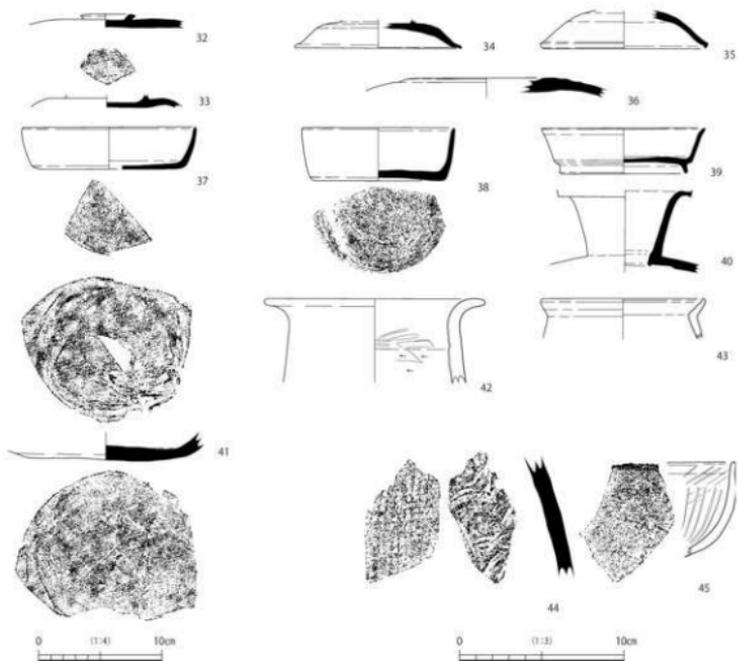
29は中世の回転台土師器である。28は底部を厚く作る。30は青磁の皿である。同安窯系I-1bと考えられる。

黒色土より上位の土器は、28、29の中世土師器、30の青磁皿から、平安時代（11～12世紀）の土器を含む。

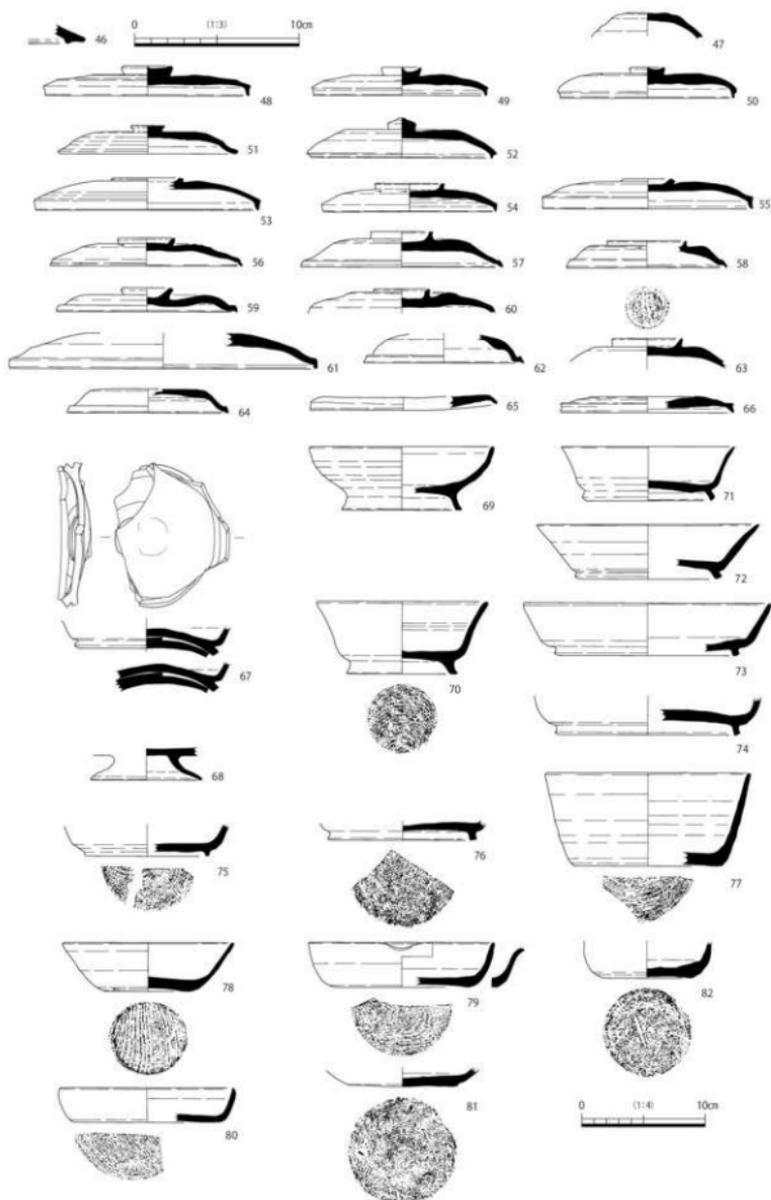
黒色土（第22図32～45）32～41、44は須恵器である。32の輪状つまみは、内側に明瞭な段を持ち、つまみへ至る。33、34も輪状つまみの痕が残る。33は天井部を静止糸切りする。37～39は坏である。37の底部は回転ヘラケズリ調整である。38は底部を回転糸切りし、その周囲をナデ調整する。39は直線的な体部で、高台の断面は細い「コ」字である。なお、35、39は重ね焼きの痕が残る。36、41は還元炎焼成になりきっていない。40、41は壺である。40は口縁端部を欠くが、口縁端部には段がある。41の底部はケズリ後ナデ調整である。44は軟質で、格子目タタキである。42、43、45は土師器である。42は口縁が胴部より開く。43は薄い作りで、口縁端部が上方へ伸びる。45は外面をヘラミガキとケズリ調整、内面は暗文風のヘラミガキがある。赤彩は確認できない。

黒色土より下層（第23図46～第26図125）第23、24図は須恵器、第25、26図は土師器を掲載した。

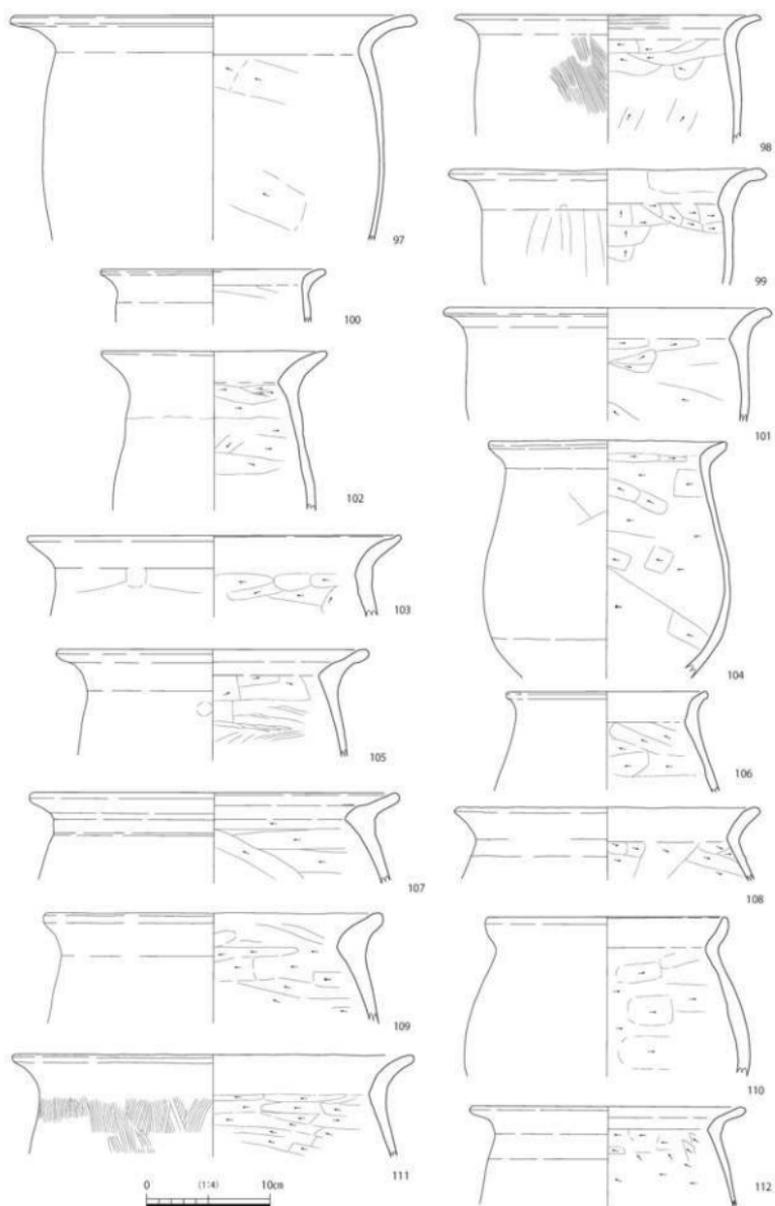
46～66は蓋である。46は細片であるが、かえりがある。かえりは短く、下方に伸びない。47



第22図 垂水遺跡黒色土の遺物実測図



第23図 垂水遺跡黒色土より下層の遺物実測図1



第25図 垂水遺跡黒色土より下層の遺物実測図3

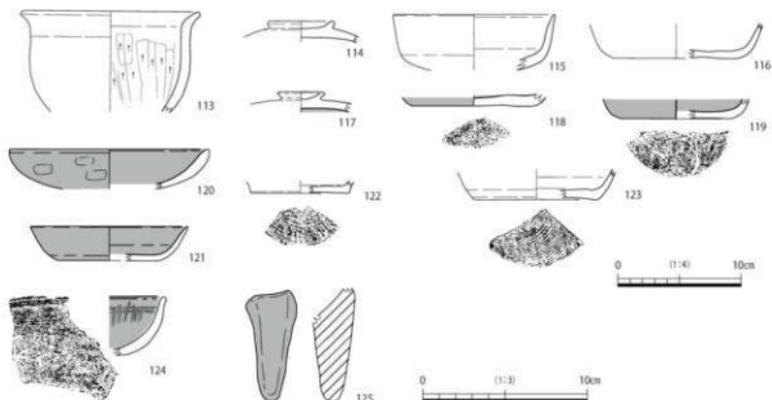
的である。79は口縁部が注口状に凹んでいる。82は内面の回転ナデ調整から環と判断した。底部の調整は77、79～81が回転糸切り、78は静止糸切り、82が回転糸切り後ナデ調整である。

83～88は壺である。83は頸の短い壺である。84、85は小型の壺である。84は底部に焼き台が付着している。86は胴部上半を欠くが、丸底である。87の底部はカキメ調整である。88は長頸壺と考えられる。89は灯明皿である。口縁部は短く強く屈曲する。90～93は高坏である。90は図面上で復元した。94は甕である。図示しなかったが甕の胴部の点数は多く、須恵器全体に対して重量で約3割、点数で約2割を占める。95は鉢である。96は外面のタタキ調整の幅が広い。

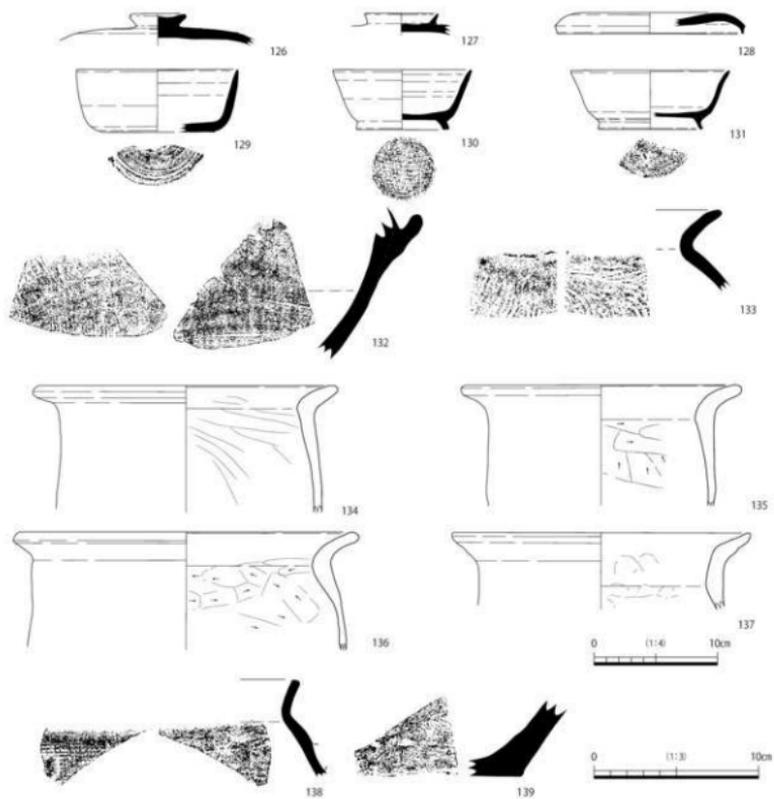
97～112は土師器の甕である。97～101は口径と胴径の差が少ないもの、102～112は口径より胴径が大きいものを示した。口径は16～19cmのものと25～30cmの大型の甕がある。103の胴部外面に凹凸があるが、これはタタキ痕の可能性がある。104は煤が付着しており、頸部には薄く、胴部には厚く付着している。105、107の内面の稜は鋭い。108、109の口縁は若干歪んでいる。110の口縁部は頸部から外湾気味に口縁部へ至る。

113は土師器の鉢である。114は輪状つまみで、つまみは天井部からゆるやかに移行する。115は外面を黒く焼き上げている。117～121、124、125は赤彩土師器である。117は内面を赤彩する。つまみは114に似る。118、119の底部は回転糸切りである。120の体部は一度ふくらんで先は尖る。124は内外ヘラミガキであるが、特に内面は暗文状のヘラミガキである。125は全形が不明であるが、脚部の破片である。摩擦しているが、細長く脚が伸びるようである。122、123は中世土師器の底部である。122は底部ヘラ切り後ナデ、123は回転糸切りである。122、123は黒色土より下層で出土したが、混入の可能性がある。

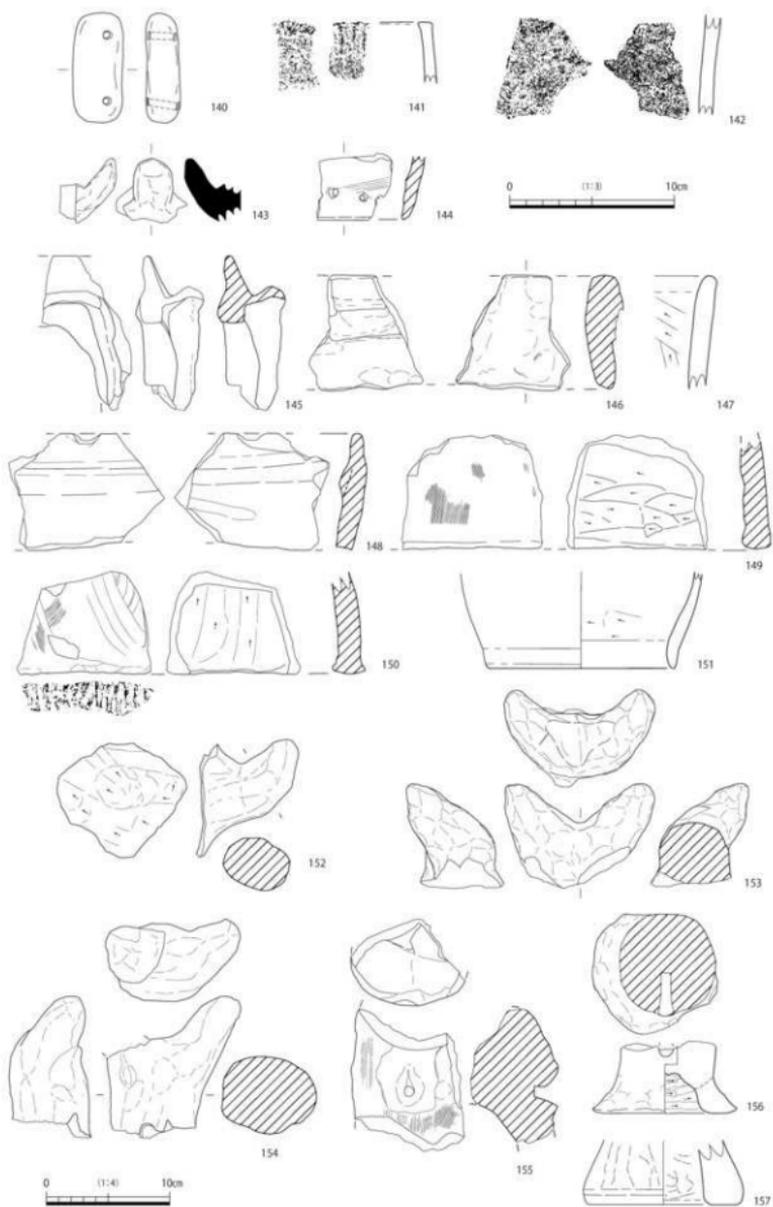
造成土・盛土 (第27図 126～139) 126～128は須恵器の蓋である。126はつまみが大きい。図面では見にくいだが、肩部に沈線上の凹みがある。127の輪状つまみは、先端が尖る。128は重ね焼きの痕がある。129の体部は直線的に口縁へ至る。底部は回転ヘラケズリ。130の高台は断面「コ」字、131は高台が細い。共に底部は静止糸切りである。132は取っ手付きの鉢である。外面はタタキ。138は短頸の壺であるが、取っ手の痕がある。



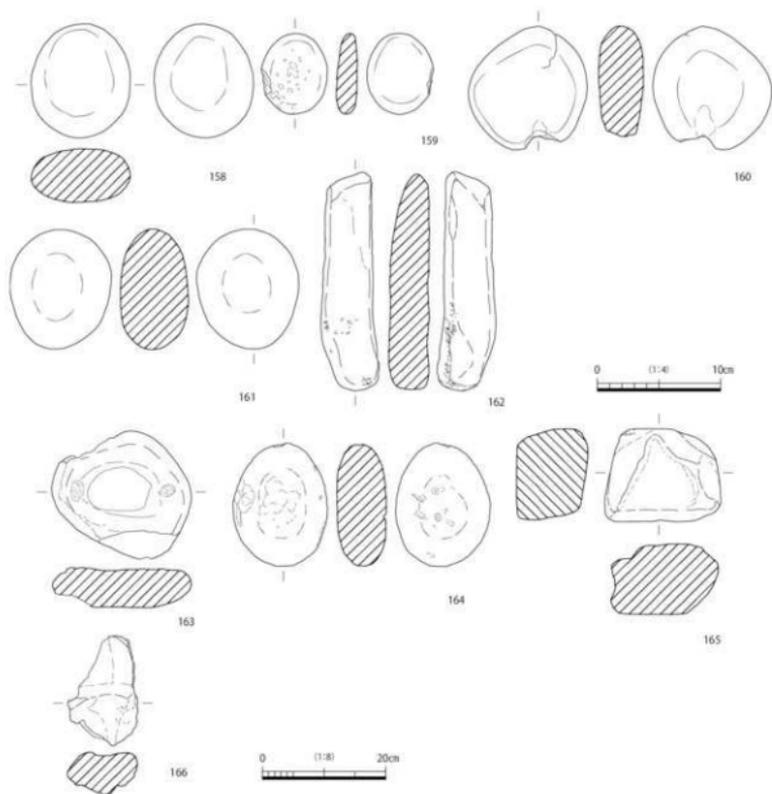
第26図 垂水遺跡黒色土より下層の遺物実測図4



第27図 垂水遺跡造成土・盛土の遺物実測図



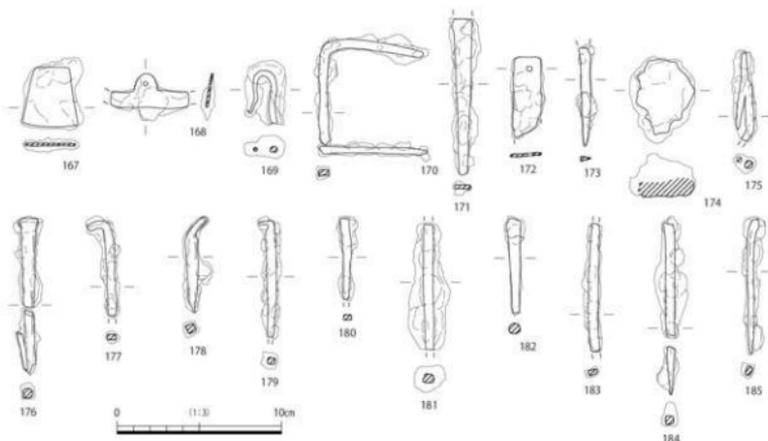
第28図 垂水遺跡土製品実測図



第29図 垂水道跡石製品実測図

134～137は土師器の甕である。134～136は口径と胴径の差が少ないものである。土製品（第28図140～157）第28図は層位にかかわらず土製品を掲載した。140は断面楕円形の扁平な粘土に、縦に2か所の穿孔がある。土錘と考えられる。似た例が鯛洲遺跡1区23層で出土している（第26図13）。141、142は製塩土器である。内面に目の細かい布目が残っている。141は口縁端部に圧痕がある。製塩土器は、このほか1点が出土した。143は須恵質の甕である。144は穿孔があることから、甕の底部付近と判断した。145～150は移動式竈である。145は焚き口の部分で、竈の口は円形であるが粘土は四角形に貼る。146は焚き口の上の部分で、粘土が剝離した痕がある。148も焚き口の部分であるが、口縁部の下に粘土を貼り、厚くしている。149、150は竈の接地面である。150は接地面に凹凸がある。製作時に凹凸のある場所で乾燥させたことによると考えられる。151は甕の底部である。残存部に穿孔は見られない。152は甕の取っ手である。取っ手は中程で屈曲する。取っ手付の甕の可能性もある。153～157は土製支脚である。153は突起が二つとも残っている。突起の先端は尖り気味である。154の突起の先端は丸みを帯びる。154～156は背面に穴がある。156、157は基部である。154は土製支脚分類のIC類（2方向突起、胴部背面に未貫通孔、岩橋2003⁽¹⁾）に相当する。

石器・石製品（第29図158～166）158、159、161は平面形が楕円形で、磨石の可能性がある。160は長軸の一端に欠けがあることから、石錘の可能性もある。162は長方形で、端に擦痕があることから、砥石の可能性を考えた。163、164は厚みのある楕円形をしており、表面が平滑であることから、台石の可能性もある。165、166は集石遺構の石である。角礫を使用している。鉄器・鉄製品（第30図167～185）167は薄い鉄片で、鉄斧の可能性もある。168は火打ち金である。紐を通す孔があいている。169はU字に湾曲しており、毛抜きと考えられる。170は「コ」字に接合できる棒状の鉄器である。171～173は刀子の破片と考えられる。174、175は不明鉄



第30図 垂水遺跡鉄製品実測図

(1) 岩橋孝典 2003「山陰地域の古墳時代後期～奈良時代の炊飯具について」『古代文化研究』11、島根県古代文化センター、55-81

製品である。174 はやや厚手。175 は先端が二つに分かれているが、破損によるものか。176～185 は釘である。176、177、179 は頭部が確認できる。

第4節 小結

垂水遺跡の調査の結果、奈良時代～平安時代の掘立柱建物1、焼土3、炭溜まり1、集石遺構1の遺構を確認した。また、黒色土や黒色土の上下の層から遺物が出土した。遺物は摩滅しているものは少なかった。砂質の土層であるが、遺物の時期と層位が逆転するような明確な攪乱は確認できなかった。さらに、黒色土の堆積後に砂丘の砂に覆われたことがわかった。

黒色土中の焼土は長さ40～160cm、幅40～60cm、厚さ30cm程度の円形～不整形である。屋外炉の可能性のあるものの、炭化材の樹種がクリであったことから、製炭や金属加工ではないと考えられるが、性格は不明である。また、黒色土より上層の砂層や黒色土中から、拳大から人頭大の礫を集めた遺構を確認した。人が持ち込んだ石と考えられるが、性格は不明である。

垂水遺跡出土土器は、須恵器の蓋の頂部に宝珠形が少なく、ボタン形や輪形が多いこと、口縁部は折り曲げ形が最も多く、面取りがそれに次ぐこと（42頁の表）、かえりのあるものが少ないこと、坏、高台付坏の体部が直線的であること、などの特徴から、石見9期（柳原2010）を中心とし、一部石見8期にさかのぼると考えられる。

なお、融着土器（67）や焼き台の付着した土器（84）が出土していることから、垂水遺跡の近隣に未発見の須恵器窯が存在する可能性がある。

土鍾（140）、製塩土器（141、142）が出土しており、漁撈や製塩が行われていたことがうかがえるが、点数が少ないことから、垂水遺跡周辺での活動は低調であったと考えられる。

垂水遺跡の調査では、弥生土器や古墳時代の土師器がわずかに出土した。このことから、垂水遺跡の調査地点は古墳時代までは集落からはずれており、活動域からも遠かったことがうかがえる。東向き谷斜面という立地が、活動を制約していたのかもしれない。かえりのある須恵器の蓋が1点出土したことから、奈良時代初めまではその状況が続いたようである。

その後、奈良時代に入り、遺構・遺物が確認できるようになる。土器には須恵器や土師器、土製品などがあり、他の集落遺跡で出土する遺物と変わらない。わずかに転用硯が数点あるのみで、宮衛的な性格を示す遺物がほとんどないことが垂水遺跡の特徴である。この点で鯛淵遺跡（転用硯、土馬、漆付着土器）や八石遺跡（円面硯）と異なる性格を持つと考えられる。

垂水遺跡での活動が盛んであった時期は短く、9世紀初頭（石見9期）以降、調査地点は黒色土が堆積するようになる。また、花粉分析では、黒色土が堆積した段階には、調査地点の付近で稲作が行われていた可能性も指摘されている。黒色土上面から出土した青磁や中世土師器から、平安時代（11～12世紀）から次第に砂丘の砂が堆積するようになったことがうかがえる。砂丘の砂は最も厚い部分で90cm近く堆積しており、この段階で周囲の風景は一変したことがうかがえる。

垂水遺跡では砂丘の砂が堆積したのは遺跡の盛期を過ぎた時期である。近隣の鯛淵遺跡では、遺跡の最下層に堆積した砂層は、静岡川河口の周辺の砂州に由来する可能性が強いことが指摘されているほか（大田市教育委員会編2017、14頁）、砂丘の停滞期に形成される腐食土層であるいわゆる「クロスナ」層のような土層がトレンチで確認されている（同、図版7右下）。

島根県東部で砂丘上に位置する遺跡として、出雲市湖陵町板津焼山遺跡（出雲市教育委員会編 2013）では7世紀中葉～8世紀前半の遺構を確認しており、その上に5m以上の砂丘の砂が堆積していた。また、出雲市上長浜貝塚（出雲市教育委員会編 1996）では、「貝層前期」（8世紀後半）と「貝層後期」（12世紀）の貝層が「クロスナ層」（12世紀）に覆われ、その後最大で10mを越す砂丘に覆われる。出雲市大社町鹿蔵山遺跡では、「VII 黄褐色砂質土」の上層に「クロスナ層」に似た色調の7世紀後半から9世紀前半の遺物包含層を「IV 灰黄色砂質土」が1～4mの厚さで覆っている（大社町教育委員会編 2005）。垂水遺跡の「黒色土」や砂丘の砂の時期は、板津焼山遺跡とは遺跡の時期が合わないが、上長浜貝塚の「クロスナ層」や鹿蔵山遺跡の砂の堆積の時期と調和的である。

【参考文献】

- 出雲市教育委員会編 1996『上長浜貝塚』、出雲市教育委員会
- 出雲市教育委員会編 2013『板津焼山遺跡 出雲市湖陵町板津土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』、出雲市の文化財報告 34、出雲市教育委員会
- 大田市教育委員会編 2000『八石遺跡』、大田市埋蔵文化財調査報告 24、大田市教育委員会
- 大田市教育委員会編 2017『鯛河遺跡 一般国道9号（大田静間道路）改築工事・和江地区漁港関連道路整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』大田市埋蔵文化財発掘調査報告書第34集、大田市教育委員会
- 大社町教育委員会編 2005『鹿蔵山遺跡 大社町立大社小学校改築事業に伴う発掘調査報告書』、大社町教育委員会
- 島根県教育委員会編 2014『市井深田遺跡 荒瀬遺跡 鈴見B遺跡1区』、一般国道9号（朝山大田道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2、島根県教育委員会
- 榎原博英 2010『石見国の須恵器生産と出雲産須恵器』島根県古代文化センター編『出雲国の形成と国府成立の研究』、65-83



写真4 完掘（南東から）

第2表 垂水道跡遺物観察表

遺物番号	検出箇所	写真図版	種別	器種	出土地点/ 遺構	層位	口径 (cm)	その他の 寸法 (cm)	残存率 (%)	形態、文様の特徴	色調
1	第20段	図版17	消音器	甕	TR16	トレンチ					(※) 灰色 (7.5Y5/1) (※) 灰色 (10Y6/1)
2	第20段	図版17	消音器	甕	TR14	トレンチ					オリーブ灰色 (2.5 G 9/5/1)
3	第20段	図版17	消音器	甕	TR15	トレンチ					灰色 (6G/1) 灰白色 (7/)
4	第20段	図版17	消音器	甕	TR15	トレンチ					(※) 灰白色 (7.5Y7/2) (※) 灰白色 (5Y7/2)
5	第20段	図版17	消音器	甕	焼土1				20		(※) 灰色 (N5/)
6	第20段	図版17	消音器	甕	焼土1				10	摩滅	暗灰色 (N3/)
7	第20段	図版17	消音器	高台付研	焼土1、2			底径 (8.0)	10	底部回転糸切り	灰色 (7.5Y5/1)
8	第20段	図版17	土師器	甕	焼土3					摩滅	(※) 褐色 (2.5Y9/6) (※) 褐色 (7.5Y9/6)
9	第20段	図版17	陶器?	研	集石遺構			底径6.5	60	底部回転糸切り	(※) にふい磨色 (7.5Y9/6) (※) 褐色 (7.5Y9/6)
13	第21段	図版17	弥生土器	甕	D3	黒色土より 上層	(19.0)		10	10条の縞模様線文	
14	第21段	図版17	古墳時代の 土師器	甕	C2	黒色土より 下層				口縁外側に波状文	
15	第21段	図版18	消音器	甕	B2	黒色土より 上層	(17.0)	器高2.5	25		(※) 灰色 (10Y5/1) (※) 黄灰色 (7.5Y5/1)
16	第21段	図版17	消音器	研	A3A4	黒色土より 上層	(14.2)	器高3.7 底径(10.0)	15	底部回転糸切り	淡黄褐色 (10Y8/3)
17	第21段	図版17	消音器	研	B3	黒色土より 上層		底径7.0	現存部 完存	底部静止糸切り	(※) 灰色 (8Y6/1) (※) 灰白色 (7.5Y7/1)
18	第21段	図版17	消音器	研	D2	黒色土より 上層	(9.0)	器高2.5	15	底部糸切り後ナデ	(※) 灰色 (7.5Y6/1) (※) 灰白色 (10Y6/1) (※) 灰色 (2.5Y7/1)
19	第21段	図版17	消音器	高台付研	C2	黒色土より 上層	(8.7)	器高3.5 径5.0	30		(※) 灰色 (10Y5/1) (※) 灰白色 (10Y6/1)
20	第21段	図版17	消音器	長頸甕	A4	黒色土より 上層			50		(※) 灰色 (9Y5/1) (※) 灰白色 (5Y7/2)
21	第21段	図版17	消音器	甕	A4	黒色土より 上層		底径(8.0)	25		(※) 灰色 (7.5Y6/1) (※) 灰黄色 (2.5Y6/2)
22	第21段	図版17	消音器	高研?	C3	黒色土より 上層	(15.0)		20		(※) 黄灰色 (2.5Y5/1) (※) 黄灰色 (2.5Y6/1)
23	第21段	図版17	消音器	灯明皿	B1	黒色土より 上層	(8.0)	器高2.3 底径(6.0)	20	底部回転糸切り	(※) 暗灰色 (10Y6/2) (※) 灰白色 (10Y6/1)
24	第21段	図版18	消音器	甕	D3	黒色土より 上層	(12.0)		30		(※) 灰色 (7.5Y6/1) (※) 灰色 (9G/1)
25	第21段	図版17	赤彩土師器	高台付研	B2	黒色土より 上層		底径(8.0)	20	内外赤彩	明赤褐色 (5Y8/6)
26	第21段	図版18	赤彩土師器	高台付研 か?	B2	黒色土より 上層			現存部 完存	赤彩	(※) にふい磨色 (10Y7/4) (※) 褐色 (2.5Y9/6)
27	第21段	図版18	土師器	甕	B2	黒色土より 上層	20.2		50		黄褐色 (7.5Y8/3)
28	第21段	図版18	中世土師器	研?	D2	黒色土より 上層		底径8.6	底部完存	底部回転糸切り	(※) 淡黄褐色 (7.5Y8/4) (※) 淡黄褐色 (10Y8/4)
29	第21段	図版17	中世の土師 器	研	A3	黒色土より 上層		底径(9.0)	25		(※) 灰白色 (2.5Y8/2) (※) 淡黄色 (2.5 Y 8/3)
30	第21段	図版17	青磁	皿	C3	黒色土より 上層	(11.8)		30 (破片)	同安楽系1-b, 裏胎	(※) 灰オリーブ色 (7.5Y6/2) 深黒 灰白色 (7.5Y6/1)
31	第21段	図版17	消音器	甕	B4	黒色土より 上層				軟質、摩滅	(※) 明褐色 (7.5Y8/6) (※) にふい磨色 (2.5Y9/2)
32	第22段	図版19	消音器	甕	E3	黒色土			つまみ部 完存	軟質	(※) 灰褐色 (5Y9/2) (※) 灰オリーブ色 (5Y9/2)
33	第22段	図版19	消音器	甕	D2	黒色土			30	天井部静止糸切り、やや軟質	(※) 灰白色 (7.5Y7/2) (※) 灰褐色 (2.5Y6/2)
34	第22段	図版19	消音器	甕	C3	黒色土	(13.4)		10		灰褐色 (10Y5/2)
35	第22段	図版19	消音器	甕	A4	黒色土	(13.0)		25		灰白色 (5Y7/2)
36	第22段	図版19	消音器	甕	A4	黒色土			30		(※) にふい磨色 (10Y6/3) (※) 淡黄褐色 (10Y6/2)
37	第22段	図版19	消音器	研	A3	黒色土	(14.0)	器高1.4 底径(11.4)	15	底部回転ヘラケズリ	(※) 灰白色 (10Y7/1) (※) 灰白色 (5Y7/2)
38	第22段	図版2	消音器	研	A3	黒色土	(12.2)	器高4.4 底径(10.0)	30	やや軟質、直線回転糸切り 後ナデ	(※) 灰オリーブ色 (5Y9/2) (※) 淡黄色 (5Y7/2)
39	第22段	図版19	消音器	高台付研	A3	黒色土	(13.2)	器高3.6 底径(10.0)	25		灰白色 (5Y7/1)
40	第22段	図版2	消音器	甕	C2	黒色土			35		(※) 暗灰色 (N3/3) (※) 灰色 (10Y5/1)
41	第22段	図版19	土師器	甕?	D4	黒色土		底径13.0	現存部 完存	還元炎焼成ではない	(※) 淡黄褐色 (10Y8/4) (※) にふい磨色 (10Y6/3)
42	第22段	図版19	土師器	甕	D4	黒色土	(17.0)		15		(※) 褐色 (7.5Y7/6) (※) 淡黄褐色 (10Y8/3)
43	第22段	図版19	土師器	甕	A4	黒色土	(13.0)		12		(※) 明褐色 (7.5Y8/6) (※) 褐色 (7.5Y7/6)
44	第22段	図版19	消音器	甕	C3	黒色土				軟質	灰白色 (10Y7/2)
45	第22段	図版19	土師器	研	C2	黒色土					(※) 明黄褐色 (10Y7/4) (※) 褐色 (7.5Y7/6)
46	第23段	図版19	消音器	甕	A3	黒色土より 下層				かえり形態 q	灰色 (10Y6/1)
47	第23段	図版19	消音器	甕	C3	黒色土より 下層			現存部 65		(※) 灰色 (7.5Y6/1) (※) 灰色 (8G/1)
48	第23段	図版18	消音器	甕	B3	黒色土より 下層	(16.0)	器高2.4	25		(※) 灰色 (N5/)
49	第23段	図版18	消音器	甕	C2	黒色土より 下層	14.0	器高2.3	80		(※) 灰色 (7.5Y5/1) (※) 灰白色 (7.5Y6/1)
50	第23段	図版18	消音器	甕	C2	黒色土より 下層	(7.0)	器高2.5	体部完存		(※) 灰色 (10Y6/1) (※) 灰色 (10Y5/1)
51	第23段	図版19	消音器	甕	C2	黒色土より 下層	(14.0)	器高2.3	つまみ部 完存	やや軟質	灰色 (9G/1)

遺物番号	拝読番号	写真回数	種別	器種	出土地点/ 遺構	層位	口径 (cm)	その他の 寸法 (cm)	残存率 (%)	形態、文様の特徴	色調
52	第23回	図版18	須臾器	蓋	C2	黒色土より 下層	14.6	器高3.3	50	やや軟質、内面に黒色物付着	(N) 灰白色 (2.597/1) (P) 黄灰色 (2.596/1)
53	第23回	図版20	須臾器	蓋	A4	黒色土より 下層	(18.0)	器高2.6	10	軟質	(N) 黄灰色 (2.596/1) (P) 灰黄色 (2.597/2)
54	第23回	図版20	須臾器	蓋	C2	黒色土より 下層	(14.0)	器高2.3	20	輪状つまみ部、内面平滑	(N) 灰色 (7.595/1) (P) 灰色 (3N5)
55	第23回	図版20	須臾器	蓋	C2	黒色土より 下層	(17.0)	器高2.9	40		(N) 灰白色 (10/7/1) (P) 灰白色 (5/7/1)
56	第23回	図版19	須臾器	蓋	B2	黒色土より 下層	(15.6)	器高2.3	つまみ部 完存	(N) 灰色 (N6/1) (P) オリーブ灰 (2.596/1)	
57	第23回	図版19	須臾器	蓋	A4	黒色土より 下層	(16.4)	器高2.9	30		(N) 灰白色 (10/7/1) (P) 灰白色 (2.597/2)
58	第23回	図版19	須臾器	蓋	C2	黒色土より 下層	(13.0)	器高2.2	15		(N) 暗赤色 (5/8/1) (P) 赤色 (2.596/1)
59	第23回	図版19	須臾器	蓋	B2	黒色土より 下層	(14.6)	器高1.9	10		(N) 灰色 (N5) (P) 灰色 (N6/1)
60	第23回	図版20	須臾器	蓋	C2	黒色土より 下層			現存部 完存	(N) 青灰色 (5/8/1) (P) 灰色 (N4)	
61	第23回	図版19	須臾器	蓋	C3	黒色土より 下層	(25.0)		10	軟質	灰黒 2.577/2
62	第23回	図版19	須臾器	蓋	B3	黒色土より 下層	(13.0)		15	自然釉	(N) 灰色 (5/4/1) (P) 灰色 (5/5/1)
63	第23回	図版19	須臾器	蓋	A4	黒色土より 下層			80	つまみ部静止糸切り、内面平滑	(N) 灰白色 (10/7/1) (P) 灰白色 (5/7/2)
64	第23回	図版19	須臾器	蓋	C3	黒色土より 下層	(13.0)		30		(N) 灰色 (7.596/1) (P) 灰色 (7.595/1)
65	第23回	図版20	須臾器	蓋	B3.B3 C2.C3	黒色土より 下層	(15.0)	器高(1.0)	50	つまみあり	灰色 (10/6/1)
66	第23回	図版19	須臾器	蓋	C3	黒色土より 下層	(14.0)	器高1.3	20	やや軟質	(N) 青灰色 (5/8/1) (P) 灰色 (5/6/1)
67	第23回	図版22	須臾器	高台付杯 之蓋	B3	黒色土より 下層	口径11.2		現存部 完存	釉着した須臾器	杯:(N) オリーブ灰 (7.593/1) (P) 灰色 (7.596/1) 蓋:(N) 灰色 (10/5/1) (P) 灰白色 (7.595/1)
68	第23回	図版20	須臾器	高台付杯	B2	黒色土より 下層	口径(8.9)		10		(N) 灰色 (N5) (P) 灰色 (10/5/1)
69	第23回	図版20	須臾器	高台付杯	C2	黒色土より 下層	(14.6)	器高5.2 口径(9.8)	20		(N) 暗灰色 (N3) (P) 灰色 (N4)
70	第23回	図版20	須臾器	高台付杯	C2	黒色土より 下層	(13.8)	器高5.9 口径9.0	高台部 完存	内面に黒色物残る、内面平滑、底面回転糸切り	(N) 灰色 (7.595/1) (P) 灰白色 (5/7/2)
71	第23回	図版21	須臾器	高台付杯	B4	黒色土より 下層	(7.0)	器高4.4 口径(10.0)	25	内面平滑	灰色 (10/6/1)
72	第23回	図版20	須臾器	高台付杯	A3	黒色土より 下層	(18.0)	器高4.4 口径(11.0)	30	底部静止糸切り後ナデ、内面平滑	灰白色 (5/7/2)
73	第23回	図版21	須臾器	高台付杯	B2	黒色土より 下層	(20.0)	器高4.3 口径(15.0)	15		灰白色 (5/6/1)
74	第23回	図版21	須臾器	高台付杯	B2	黒色土より 下層		口径(15.0)	15	やや軟質、底面糸切り後ナデ	灰白色 (2.598/2)
75	第23回	図版21	須臾器	高台付杯	C2	黒色土より 下層		口径(10.0)	20	底面回転糸切り	(N) 灰色 (7.594/1) (P) 灰黄色 (2.597/2)
76	第23回	図版21	須臾器	高台付杯	B3	黒色土より 下層		口径(12.0)	30	底部回転糸切り	(N) 灰色 (N6/1) (P) 灰色 (N5)
77	第23回	図版20	須臾器	杯	C2	黒色土より 下層	(16.6)	器高7.6 口径(12.0)	15	底面回転糸切り	(N) 青灰色 (5/8/1) (P) 灰色 (1.008/5)
78	第23回	図版22	須臾器	杯	B3.C3	黒色土より 下層	(13.8)	器高4.0 口径6.2	底部完存	底部静止糸切り	(N) 灰白色 (10/7/1) (P) 灰色 (10/6/1)
79	第23回	図版22	須臾器	杯	C2	黒色土より 下層	(15.0)	器高3.7 口径(11.0)	20	注口あり、底面回転糸切り	灰色 (10/5/1)
80	第23回	図版22	須臾器	杯	B2	黒色土より 下層	(14.0)	器高2.8 口径(12.0)	15	底部静止糸切り	(N) 灰色 (N5) (P) 灰色 (N6/1)
81	第23回	図版21	須臾器	杯	B2	黒色土より 下層		口径9.0	底部完存	軟質、底面回転糸切り	(N) 灰色 (5/5/1) (P) 灰色 (5/8/1)
82	第23回	図版22	須臾器	杯	B2	黒色土より 下層		口径7.2	底部完存	底面回転糸切り後ナデ、ヘリ切り履	灰白色 (N7)
83	第24回	図版21	須臾器	蓋	B3.C3	黒色土より 下層	(20.0)		25		(N) 灰色 (N6/1) (P) 灰色 (10/6/1)
84	第24回	図版22	須臾器	蓋	A3.A4	黒色土より 下層	(6.4)	器高4.5 最大口径(9.0)	50	焼き台付着、自然釉	(N) 灰色 (10/5/1) (P) 灰白色 (N7)
85	第24回	図版22	須臾器	蓋	C2	黒色土より 下層		口径(5.4)	40	底部回転糸切り、自然釉	(N) 灰色 (10/5/1) (P) 灰色 (10/6/1)
86	第24回	図版22	須臾器	蓋	C2	黒色土より 下層			底部完存	自然釉	(N) 灰色 (5/6/1) (P) 灰色 (N6/1)
87	第24回	図版21	須臾器	蓋	C2	黒色土より 下層		口径(12.0)	45	底部キメ	(N) 灰白色 (N5) (P) 灰白色 (N6/1)
88	第24回	図版24	須臾器	蓋	C2	黒色土より 下層		口径(7.6)	20	長頸蓋か	(N) 灰色 (N5) (P) 灰色 (7.596/1)
89	第24回	図版22	須臾器	灯明皿	B2	黒色土より 下層	7.4	器高2.9 口径4.6 口径(7.0) 口径(6.6)	70	底面回転糸切り	灰色 (N6)
90	第24回	図版21	須臾器	高坪	B2	黒色土より 下層	(9.0)		20	図上で合成、自然釉	(N) オリーブ灰 (5/9/2) (P) 灰白色 (7.597/1)
91	第24回	図版21	須臾器	高坪	B2	黒色土より 下層	(11.0)		10		(N) 灰色 (7.595/1) (P) 灰白色 (7.597/1)
92	第24回	図版22	須臾器	高坪	B3	黒色土より 下層				頸部部 完存	(N) 灰色 (N6/1) (P) 灰白色 (N7)
93	第24回	図版21	須臾器	高坪	C2	黒色土より 下層		口径(11.0)	10		灰色 (7.596/1)
94	第24回	図版24	須臾器	壁	B3	黒色土より 下層					(N) 灰色 (5/6/1) (P) 灰白色 (7.596/1)
95	第24回	図版21	須臾器	鉢	C2	黒色土より 下層					(N) 灰色 (7.596/1) (P) 灰色 (10/5/1)
96	第24回	図版21	須臾器	壁	B3	黒色土より 下層				軟質	(N) 暗灰色 (10/8/1) (P) 浅灰色 (2.597/3)

第2章 垂水道跡

遺物番号	埋蔵番号	写真図版	種別	器種	出土地点/ 遺構	層位	口径 (cm)	その他の 寸法 (cm)	残存率 (%)	形態、文様の特徴	色調
97	第25図	図版24	土師器	甕	A3A4	黒色土より 下層	32.0		75		褐色 (7.5YR5/8)
98	第25図	図版23	土師器	甕	B2	黒色土より 下層	(24.0)		20		(K) 褐色 (10YR4/4) (P) にぶい黄褐色 (10YR6/4)
99	第25図	図版23	土師器	甕	B2	黒色土より 下層	(25.0)		20	外周縁方向のナデ	(K) 黒褐色 (10YR3/1) (P) にぶい黄褐色 (10YR5/3)
100	第25図	図版24	土師器	甕	A4	黒色土より 下層	(18.0)		30	摩滅	(K) 褐色 (7.5YR7/6) (P) にぶい黄褐色 (10YR7/4)
101	第25図	図版24	土師器	甕	B2	黒色土より 下層	(26.0)		30	胴部に被熱痕	にぶい黄褐色 (10YR7/4)
102	第25図	図版23	土師器	甕	B3	黒色土より 下層	(18.0)		25	胴部に被熱痕	(K) にぶい黄褐色 (10YR6/4) (P) 明黄褐色 (10YR6/6)
103	第25図	図版23	土師器	甕	D2	黒色土より 下層	(30.0)		10	胴部に凹みあり	(K) 明赤褐色 (5YR5/6) (P) 褐色 (5YR6/6)
104	第25図	図版23	土師器	甕	B2C2	黒色土より 下層	(19.0)		25		(K) 褐色 (10YR4/4) (P) 黄褐色 (10YR5/6)
105	第25図	図版23	土師器	甕	C2	黒色土より 下層	(25.0)		30		(K) にぶい黄褐色 (10YR6/3) (P) にぶい黄褐色 (10YR5/4)
106	第25図	図版23	土師器	甕	A4	黒色土より 下層	(16.0)		25		(K) 褐色 (7.5YR4/0) (P) 明褐色 (7.5YR5/6)
107	第25図	図版25	土師器	甕	C2	黒色土より 下層	(30.0)		10		(K) 褐色 (5YR7/6) (P) 褐色 (7.5YR7/6)
108	第25図	図版24	土師器	甕	C2	黒色土より 下層	(24.0)		35		にぶい黄褐色 (10YR7/4)
109	第25図	図版24	土師器	甕	C2	黒色土より 下層	(27.0)		50		(K) にぶい黄褐色 (10YR7/3) (P) にぶい褐色 (7.5YR7/3)
110	第25図	図版25	土師器	甕	A4	黒色土より 下層	(19.2)		10		(K) にぶい黄褐色 (10YR4/3) (P) 明褐色 (7.5YR5/6)
111	第25図	図版24	土師器	甕	C2	黒色土より 下層	(32.0)		25		(K) 暗灰色 (10YR4/1) (P) 褐色 (7.5YR7/6)
112	第25図	図版25	土師器	甕	C3	黒色土より 下層	(22.0)		10		褐色 (7.5YR4/3)
113	第26図	図版25	土師器	鉢	C2	黒色土より 下層	(14.0)		25		明赤褐色 (5YR5/0)
114	第26図	図版24	土師器	甕	B3	黒色土より 下層			残存部 欠存		(K) 灰青褐色 (10YR3/2) (P) 褐色 (7.5YR4/1)
115	第26図	図版25	土師器	椀	C2	黒色土より 下層	(13.0)		15	外周を黒く焼き上げる	(K) 暗灰色 (10YR6/1) (P) 灰白色 (10YR8/2)
116	第26図	図版25	土師器	椀	C3	黒色土より 下層			15	磨滅	淡黄褐色 (10YR8/3)
117	第26図	図版25	赤彩土師器	甕	C2	黒色土より 下層			70		(K) 淡黄褐色 (7.5YR6/6) (P) 褐色 (5YR6/6)
118	第26図	図版25	赤彩土師器	杯	C2	黒色土より 下層		底径(10.0)	20	内外赤彩、底部回転糸切り	(K) 褐色 (7.5YR4/6) (P) 灰青褐色 (10YR4/2)
119	第26図	図版25	赤彩土師器	杯	C2	黒色土より 下層		底径(9.0)	35	内外赤彩、底部回転糸切り	(K) 褐色 (7.5YR6/6) (P) 明赤褐色 (5YR5/8)
120	第26図	図版25	赤彩土師器	椀	A3	黒色土より 下層	(16.0)		25	内外赤彩	褐色 (7.5YR4/6)
121	第26図	図版25	赤彩土師器	杯	C2	黒色土より 下層	(12.6)	器高2.8 底径(8.0)	10	内外赤彩、磨滅	褐色 (7.5YR4/6)
122	第26図	図版25	中世土師器	杯	C2	黒色土より 下層		底径(8.0)	25	底部ヘラ切り後ナデ	褐色 (5YR7/6)
123	第26図	図版25	中世土師器	杯	C2	黒色土より 下層		底径(10.0)	30		褐色 (7.5YR7/6)
124	第26図	図版25	赤彩土師器	椀	C2	黒色土より 下層				内外赤彩	褐色 (5YR6/6)
125	第26図	図版25	赤彩土師器	胴部?	B3	黒色土より 下層				先端は磨滅、内外赤彩	(K) 褐色 (5YR6/6) (P) 灰黄色 (2.5YR6/2)
126	第27図	図版26	須恵器	蓋	-	造成土・盛土			つまみ あり		(K) 灰白色 (N7) (P) 灰白色 (7.5Y7/1)
127	第27図	図版26	須恵器	蓋	C5	造成土・盛土			75		(K) 灰白色 (10YR8/2) (P) 灰白色 (2.5Y7/1)
128	第27図	図版26	須恵器	蓋	C5	造成土・盛土	(15.0)		60		灰白色 (2.5Y9/1)
129	第27図	図版26	須恵器	杯	C4	造成土・盛土	(13.0)	器高5.1 底径(9.2)	25	軟質、底部回転ヘラケズリ	(K) 灰白色 (2.5YR2) (P) 灰白色 (2.5Y7/2)
130	第27図	図版26	須恵器	高台付杯	C4	造成土・盛土	(11.2)	器高4.9 底径(6.6)	底部欠存	底部静止糸切り	灰白色 (7.5Y7/1)
131	第27図	図版26	須恵器	高台付杯	A3	造成土・盛土	(12.8)	器高4.8 底径(8.0)	20	底部静止糸切り	(K) 灰色 (7.5YR6/1) (P) 灰色 (10YR7/1)
132	第27図	図版27	須恵器	鉢	A3	造成土・盛土				取っ手付き	(K) 灰色 (7.5Y7/1) (P) 灰色 (7.5Y6/1)
133	第27図	図版27	須恵器	蓋	B4	造成土・盛土					(K) 灰白色 (N6.7) (P) 灰白色 (N6/1)
134	第27図	図版26	土師器	甕	B4	造成土・盛土	(24.0)		50		(K) 褐色 (7.5YR4/6) (P) 明黄褐色 (10YR6/6)
135	第27図	図版27	土師器	甕	B4	造成土・盛土	(22.0)		15	磨滅	(K) 褐色 (7.5YR6/6) (P) にぶい褐色 (7.5YR6/4)
136	第27図	図版26	土師器	甕	B4C4	造成土・盛土	(27.0)			口縁ほぼ 欠存	(K) 褐色 (7.5YR6/6) (P) 褐色 (5YR6/8)
137	第27図	図版27	土師器	甕	B4	造成土・盛土	(24.0)		20	磨滅	(K) にぶい黄褐色 (10YR6/4) (P) 明黄褐色 (10YR6/6)
138	第27図	図版27	須恵器	蓋	C4	造成土・盛土				取っ手の痕有り	(K) 灰青褐色 (10YR5/2) (P) オリーブ灰色 (2.5Y6/1)
139	第27図	図版27	須恵器	蓋	C4	造成土・盛土					灰白色 (7.5Y7/1)
140	第28図	図版27	土製品	土埴	B3	黒色土より 下層		長さ6.8 幅1.0 厚さ1.9 重さ51g		縦に2か所穿孔	にぶい褐色 (10YR7/4)
141	第28図	図版27	土製品	製塩土器	B2	黒色土より 下層				内面に目の細かい布痕、環部に仕痕	(K) 淡黄褐色 (7.5YR8/6) (P) 褐色 (5YR7/6)
142	第28図	図版27	土製品	製塩土器	B2	黒色土より 下層				内面に目の細かい布痕	(K) 明褐色 (10YR8/6) (P) 黄褐色 (7.5YR7/8)

遺物 番号	拝読番号	写真図版	種別	器種	出土地点/ 遺構	層位	口径 (cm)	その他の 寸法 (cm)	残存率 (%)	形態、文様の特徴	色調
141	第28回	図版27	土製品	甌	C3	黒色土より 下層				須恵質	(外) オリーブ黒色 (3Y3/1) (内) 灰色 (3Y96/7)
144	第28回	図版27	土製品	甌	B2	黒色土				穿孔内から外へ3か所	(外) にぶい黒褐色 (10Y96/4) (内) にぶい黄褐色 (10Y96/3)
145	第28回	図版27	土製品	移動式甕	C2	黒色土より 下層				焚き口部	(外) 浅黄褐色 (3Y98/4) (内) 浅黄褐色 (7.5Y98/4)
146	第28回	図版27	土製品	移動式甕	D3	黒色土より 上層					(外) 浅黄褐色 (3Y98/4) (内) 浅黄褐色 (7.5Y98/4)
147	第28回	図版27	土製品	移動式甕	B3	赤土					(外) 赤黄褐色 (3Y96/6) (内) 赤褐色 (10Y97/6)
148	第28回	図版27	土製品	移動式甕	C2	黒色土より 上層				焚き口部	(外) 浅黄褐色 (2.5Y7/3) (内) 浅黄褐色 (2.5Y7/4)
149	第28回	図版27	土製品	移動式甕	C3	黒色土より 下層					(外) 浅黄褐色 (2.5Y7/4) (内) にぶい黄褐色 (10Y96/4)
150	第28回	図版27	土製品	移動式甕	C3	黄土・造成土				接地面に圧痕	(外) にぶい褐色 (7.5Y92/4) (内) にぶい黄褐色 (10Y92/4)
151	第28回	図版27	土製品	甌	A3	黒色土より 下層	直径(15.0)	15			(外) にぶい褐色 (7.5Y92/4) (内) 褐色 (10Y94/6)
152	第28回	図版28	土製品	甌	C2	黒色土より 下層				被熱痕	(外) 赤黄褐色 (10Y97/6) (内) 褐色 (7.5Y96/7)
153	第28回	図版28	土製品	土製支脚	B3	黒色土より 下層	幅12.2			被熱痕	褐色 (3Y96/6)
154	第28回	図版28	土製品	土製支脚	C2	黒色土より 下層				背面に穴	褐色 (3Y96/6)
155	第28回	図版28	土製品	土製支脚	C2	黒色土より 下層				背面に穴	褐色 (7.5Y97/6)
156	第28回	図版29	土製品	土製支脚	C2	黒色土より 下層	幅11.6	現存部 完存			褐色 (7.5Y97/6)
157	第28回	図版29	土製品	土製支脚	A3	黒色土	直径(12.0)	30			(外) にぶい黄褐色 (10Y96/4) (内) 褐色 (7.5Y96/6)

第3表 垂水遺跡石器・石製品・鉄器観察表

遺物 番号	拝読番号	写真図版	種別	器種	出土地点/ 遺構	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	形態の特徴
10	第20回	図版29	石	被熱のある石	集石遺構		27.2	22.6	16.0	7,150	
11	第20回	図版29	石	被熱のある石	集石遺構		25.2	19.8	17.8	6,250	
12	第20回	図版29	石	被熱のある石	集石遺構		16.8	19.7	8.3	4,425	
158	第29回	図版28	石器	磨石?	D3	黒色土	9.3	8.0	4.4	467	
159	第29回	図版28	石器	磨石?	E3	黒色土上層	6.6	5.3	5.3	82	
160	第29回	図版28	石器	石棒?	C2	黒色土より下層	10.1	9.6	3.6	488	一端に欠け
161	第29回	図版28	石器	磨石?	B3	黒色土より下層	9.8	8.3	5.5	607	
163	第29回	図版28	石器	磨石?	C2	黒色土より下層	17.5	4.3	3.3	351	磨面あり
163	第29回	図版29	石器	台石	C2	黒色土より下層	22.5	20.5	6.3	3,600	
164	第29回	図版29	石器	台石	C2	黒色土より下層	15.2	15.2	8.0	3,250	
165	第29回	図版29	石	集石の石	D3	黒色土より下層	18.8	15.1	11.8	5,000	
166	第29回	図版29	石	集石の石	B2	黒色土より下層	18.0	11.1	6.3	1,023	
167	第30回	図版30	鉄器	鉄棒?	D2	黒色土より下層	3.6	3.4	0.2		
168	第30回	図版30	鉄器	火打ち金	B2	黒色土より上層			0.2		
169	第30回	図版30	鉄器	毛氈き?	C2	黒色土より上層					
170	第30回	図版30	鉄器	不明鉄製品	B3	黒色土より下層	(13.0)	(0.5)	(0.4)		L字に屈曲
171	第30回	図版30	鉄器	刀子?	B3	黒色土より下層		(0.2)			
172	第30回	図版30	鉄器	刀子?	B2	黒色土より下層		(1.7)	(0.2)		
173	第30回	図版30	鉄器	刀子	C3	黒色土より下層		(0.6)	(0.3)		
174	第30回	図版30	鉄器	不明鉄製品	C3	黒色土より下層	(4.0)	(3.5)			
175	第30回	図版30	鉄器	不明鉄製品	C2	黒色土より上層					
176	第30回	図版30	鉄器	釘	C2	黒色土より下層		(0.6)	(0.6)		
177	第30回	図版30	鉄器	釘	C2	黒色土より下層		(0.5)			
178	第30回	図版30	鉄器	釘	C2	黒色土より下層		(0.5)	(0.5)		
179	第30回	図版30	鉄器	釘	B2	黒色土より上層		0.5	0.4		
180	第30回	図版30	鉄器	釘	B3	黒色土より下層		0.5	0.3		
181	第30回	図版30	鉄器	釘	C3	黒色土より上層		0.6	0.5		
182	第30回	図版30	鉄器	釘?	B3	黒色土より下層					
183	第30回	図版30	鉄器	釘	C2	黒色土より上層		(0.6)			
184	第30回	図版30	鉄器	釘	B2	黒色土より下層	(9.8)	(0.5)	(0.5)		
185	第30回	図版30	鉄器	釘	C2	黒色土より下層	(8.2)	(0.6)	(0.4)		

第4表 垂水遺跡鉄滓観察表

整理 番号	種別	器種	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
No.1	鉄滓	椀形滓?	C3	黒色土より上層	5.7	3.8	2.7	90.65
No.2	鉄滓	流動滓?	B3	黒色土より上層	3.3	1.9	1.1	3.48
No.3	鉄滓	流動滓?	B3	黒色土より上層	2.8	1.9	1.3	4.80
No.4	鉄滓	流動滓?	B3	黒色土より上層	2.2	1.7	0.8	0.35
No.5	鉄滓	椀形滓	B1	黒色土より下層	5.5	3.9	1.9	41.63
No.6	鉄滓	椀形滓	B3	黒色土より下層	8.3	4.8	2.8	150.90
No.7	鉄滓	椀形滓	C2	黒色土より下層	4.7	2.9	2.9	32.01
No.8	鉄滓	流動滓?	B3	黒色土より下層	3.9	3.6	1.1	15.49
No.9	伊壁	流動滓?	C2	黒色土より下層	7.7	5.0	4.3	109.04
No.10	金属滓	鉛?	C2	黒色土より下層	4.3	4.2	0.5	37.45

第5表 垂水道跡土器数量表

種別	層位/遺構	A1		B1		C1		A2		B2		C2	
		重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数
土師器	表土	189.23	10	200.25	19								
	造成土・盛土											527.57	30
	層位不明											30.21	1
	黒色土より上層			566.38	45	76.34	5	65.50	5	3531.22	220	4345.62	191
	黒色土									1886.80	84	1997.48	85
土製品	表土									10695.18	4183	22051.38	819.5
	造成土・盛土											24.03	1
	層位不明												
	黒色土より上層							67.30	1	82.65	2	1160.73	9
	黒色土									284.16	3	48.30	2
赤彩土師器	黒色土より上層									1515.28	21	6312.53	59
	黒色土									144.55	6	133.21	4
	黒色土											4.53	1
	黒色土より下層									94.12	10	225.23	17
	層位不明												
弥生土器	土師器			8.25	1	6.99	1			51.78	5	107.11	8
	中世土師器	黒色土より上層		3.35	1					8.08	1	45.86	4
	黒色土									29.34	2	14.07	2
	黒色土より下層									0.85	1	112.96	6
	土師器計	189.23	10	778.23	66	83.33	6	132.80	6	18333.01	773.5	37140.82	1239.5
須恵器	表土	131.21	7	99.75	15								
	造成土・盛土											275.79	17
	層位不明											127.85	3
	黒色土より上層			172.71	18			109.39	13	2367.40	137	2214.65	88
	黒色土									299.16	15	1464.96	49
輸入陶磁器	黒色土より下層									4851.12	173.25	15543.29	430.25
	黒色土上層											51.60	1
	中世陶器	黒色土より上層											
	黒色土									34.64	1	26.46	1
	黒色土より下層												
須恵器計	131.21	7	272.46	33	0.00	0	109.39	13	7552.32	326.25	19704.60	589.25	
合計	320.44	17	1050.69	99	83.33	6	242.19	19	25885.33	1099.75	56845.42	1828.75	

種別	層位/遺構	A3		B3		C3		C3/遺構		D3		E3	
		重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数
土師器	表土	30.80	1	97.22	3								
	造成土・盛土	623.76	39	156.98	5	808.07	38			12.73	1		
	層位不明												
	黒色土より上層	976.20	52	2846.02	195	1752.74	87			299.47	9	6.27	1
	黒色土	1024.60	47	1412.97	77	2849.36	166	132.64	5	90.77	5	734.06	30
土製品	黒色土より下層	1362.20	49.5	10576.33	429	3457.18	170			72.48	5		
	表土			132.71	1								
	造成土・盛土	133.57	5			391.03	2						
	層位不明												
	黒色土より上層			77.32	3	63.71	2						
赤彩土師器	黒色土	78.72	2	18.39	1	272.00	7						
	黒色土より下層	202.56	3	1223.96	11	1344.14	12						
	黒色土より上層			20.04	2								
	黒色土			10.51	1	38.47	3					18.17	2
	黒色土より下層	62.37	1	138.98	10	32.96	2						
弥生土器	層位不明	3.78	1										
	土師器			57.18	3	20.45	1			53.81	1		
	中世土師器	黒色土より上層	42.46	3	41.16	3	47.28	4			10.88	1	
	黒色土					148.69	15						
	黒色土より下層			53.54	5	21.90	2						
土師器計	4541.02	203.5	16863.31	749	11247.98	511	132.64	5	540.14	22	758.50	33	
須恵器	表土	48.65	4	48.79	2								
	造成土・盛土	1179.04	30	37.51	2	720.72	41			74.12	4		
	層位不明												
	黒色土より上層	531.19	30.5	2702.76	207	1555.27	95			546.08	13	49.21	2
	黒色土	683.93	30	1458.12	78	4328.34	225	369.31	19	518.05	30	439.96	20
輸入陶磁器	黒色土より下層	309.20	15.5	6446.40	244.25	4516.39	193			12.52	1	43.93	1
	黒色土上層					16.37	1						
	中世陶器	黒色土より上層											
	黒色土					225.94	8						
	黒色土より下層												
須恵器計	2752.01	110	10693.58	533.25	11363.03	563	369.31	19	1150.77	48	533.10	23	
合計	7293.03	313.5	27556.89	1282.25	22611.01	1074	501.95	24	1690.91	70	1291.60	56	

種別	層位 / 遺構	D2		B4		C4		D4		B5		C5	
		重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数
土師器	表土			3821.83	71.5	2649.97	70.5			8462	3		
	造成土・盛土												
	層位不明												
	黒色土より上層	58.69	3	79.02	5	151.22	3	85.60	2	12.84	1		
	黒色土			91.87	10			297.63	8				
土製品	黒色土より下層	817.27	38	340.68	22			46.49	3				
	表土												
	造成土・盛土			78.98	1								
	層位不明												
	黒色土より上層												
赤彩土師器	黒色土より下層	161.30	2	64.99	1			45.49	1				
	黒色土より上層												
	黒色土												
	黒色土より下層												
	層位不明												
弥生土器													
土師器													
中世土師器	黒色土より上層	181.86	1			10.84	1						
	黒色土												
	黒色土より下層												
須恵器	土師器計	1219.12	44	4477.37	110.5	2812.03	74.5	475.21	14	97.46	4		
	表土												
	造成土・盛土			254.54	20	1121.90	31					205.94	3
	層位不明												
	黒色土より上層	53.99	2	304.66	11	122.04	9	1166.8	4				
輸入陶磁器	黒色土	106.60	5	161.96	4			254.64	12				
	黒色土より下層	599.70	27	166.54	6			64.14	3				
	黒色土上層												
	黒色土より上層												
	黒色土												
須恵器計	黒色土より下層												
	須恵器計	760.29	34	887.70	41	1241.94	40	435.46	19			205.94	3
	合計	1979.41	78	5365.07	151.5	4055.97	114.5	916.67	33	97.46	4	205.94	3

種別	層位 / 遺構	南東斜面 A4		埴土		表採 / 出土位置不明		重量 (g)		点数	
		重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数
土師器	表土			33.24	1					550.74	34
	造成土・盛土	188.76	4	259.90	17					9,134.19	279
	層位不明					296.18	31			326.39	32
	黒色土より上層			393.20	32			254.37	8	15,500.70	864
	黒色土			1657.61	104					12,175.79	621
土製品	黒色土より下層			3662.16	145.5					53,081.35	2,100
	表土									132.71	1
	造成土・盛土			58.51	1					662.09	9
	層位不明					30.99	1			55.02	2
	黒色土より上層			17.89	1					1,469.60	18
赤彩土師器	黒色土			31.40	1					778.46	17
	黒色土より下層			165.10	3					10,989.86	112
	黒色土より上層									297.80	12
	黒色土			29.76	2					101.44	9
	黒色土より下層			2.60	1					556.26	41
弥生土器	層位不明					8.36	1			12.14	2
	表土									53.81	1
	土師器			14.09	1					265.85	20
	中世土師器							11.69	1	403.46	20
	黒色土									192.10	19
須恵器	黒色土より下層									198.25	14
	土師器計	188.76	4	6325.46	309.5	335.53	33	266.06	9	106,938.01	4,227
	表土									328.40	28
	造成土・盛土	49.91	2	130.54	6					4,050.01	156
	層位不明					300.12	21			427.49	24
輸入陶磁器	黒色土より上層			619.04	44.5			746.06	26	12,211.13	700
	黒色土			905.29	39					10,990.32	526
	黒色土より下層			930.18	40.5					33,483.41	1,135
	黒色土上層									16.37	1
	黒色土より上層									51.60	1
須恵器計	黒色土									260.58	9
	黒色土より下層									26.46	1
	須恵器計	49.91	2	2585.05	130	300.12	21	746.06	26	61,845.77	2,581
	合計	238.67	6	8910.51	439.5	635.65	54	1012.12	35	168,783.78	6,808

第2章 重水道路

調査箇所	黒色土より上層		黒色土		黒色土より下層		合計	
	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数
天井/ボタン	238.91	3	37.72	3	163.27	6	439.90	12
天井/輪状	182.66	10	258.95	8	917.66	15	1359.27	33
体部/管形	213.83	3			995.74	10	1209.57	13
体部/屈曲	30.63	2	131.32	6	293.48	6	455.43	14
体部/扁平	40.60	1	49.81	2	431.30	6	521.71	9
体部/その他	30.10	1					30.10	1
口縁/面取り	111.89	11	141.21	14	386.90	30	640.00	55
口縁/丸	13.39	2	137.44	7	94.49	8	245.32	17
口縁/折り曲げ	147.80	20	140.64	14	1532.57	75	1821.01	109
口縁/その他	18.03	2			4.22	1	22.25	3
合計	1027.84	55	897.09	54	4819.63	157	6744.56	266